



特設ウェブサイト
もご覧ください

令和8(2026)年度以降版教科書

内容解説資料

地図046-901『新詳高等地図』

「教科書発行者行動規範」に則った資料です

文部科学省検定済教科書
高等学校地理歴史科用

46	帝国
地図 046-901	

新詳高等地図

帝国書院編集部編

地理総合・地理探究の学習に必携！
新しくて詳しい地図帳



帝国書院

新詳高等地図

令和8(2026)年度発刊
地図046-901
AB判 208ページ

地理総合・地理探究の学習に必携!
新しくて詳しい地図帳



令和4(2022)年度以降版

大刷新!



令和8(2026)年度以降版

『新詳高等地図』に込めた思い

地理総合・地理探究の学びを広げ、深める地図帳をめざして

著作者代表 元文部科学省初等中等教育局 視学官 濱野清
兵庫教育大学 教授
帝国書院 編集部

地図帳は、地理総合や地理探究の教科書と共に、その使用が求められる教科書です。他教科等には無い2冊の教科書を併用する意義はどこにあるのでしょうか。

現行の学習指導要領改訂において、見方・考え方が各教科等の学びの本質的な意義とされたことはご承知のとおりです。地理に関しては位置や分布、場所などといった5つの視点が示されたところですが、これらの視点に着目した地図帳ならではの空間的な視座から、地理総合や地理探究の教科書を補完し、学びを広げ、深める役目がこの地図帳にはあります。

今回の『新詳高等地図』ではその趣旨に鑑み、「新しくて詳しい」とするコンセプトはそのままに、地理総合、地理探究で取り扱われる数々の主題に即応した地図や諸資料を、大幅に拡充したところです。無論、地理の学びに必須の要件である歴史的背景や政治経済的な諸事象についても目配りをし、さらには豊富なデジタル資料とも紐付けることで、地理歴史科は元より公民科等の学びをも射程に入れた、幅広い活用が可能な教科書としております。

これからの高校生が実社会において直面するであろう、さまざまな諸課題に対して思案を巡らし、その在り様を考える際の座右の書として、この地図帳が、1人1人の傍らにあることを願っています。

本資料のもくじ

特色 ①	地域の特色が深く理解できる構成・表現!	
	●基本図・拡大図から地域主題図まで、さまざまな用途に対応できる構成	4
	●地域の特色が一目でわかる等高段彩表現・土地利用表現	12
	●地域の特色をつかむための図取りや図法	14
	●比較・関連させて考察できる各所の主題図	16

特色 ②	時代の様相をとらえた地図を複数新設!	
	●注目される国際問題などをとらえた新たな地図	18
	●グローバルな視点で地域を探究できる「Global Eye」	24

特色 ③	授業だけでなく実社会で役立つ地図と活用を促す工夫!	
	●学習指導要領に対応したテーマ別主題図	28
	●見方・考え方を働かせられる「読図」コーナー	40
	●地図帳の使い方がわかる巻頭ページ	44

地図帳 活用例	●〈地理総合〉地球環境問題、都市・居住問題を事例に	46
	●〈地理総合〉自然災害と防災を事例に	48
	●〈地理探究〉ヨーロッパ地誌を事例に	50

QRコンテンツ	52
---------	----

関連教材	54
------	----

全体構成	55
------	----

特色一覧・著作関係者	56
------------	----

特色①

特色②

特色③

地図帳活用例

QRコンテンツ

関連教材

全体構成

特色

①

地域の特色が深く理解できる構成・表現！

成・表現！

▶ 基本図・拡大図から地域主題図まで、さまざまな用途に対応できる構成

まな用途に対応できる構成

世界の各地域の構成



● 各地域の地図は、基本図、鳥瞰図、拡大図、主題図、主題図 (Global Eye) の5種類で構成され、学習の用途に合わせてお使いいただけます。



基本図

土地の高さで色分けした等高段彩表現の地図です。地域の基礎的情報を確認できます。

▲ p.49-50
➡ 本資料p.6-7



鳥瞰図

地域の地形や風土がイメージできる地図です。イラストから生活文化もとらえられます。

▲ p.51-52
➡ 本資料p.8-9



拡大図

土地利用や植生を表現した地図です。絵記号と合わせて地域の農業や工業の様子を確認できます。

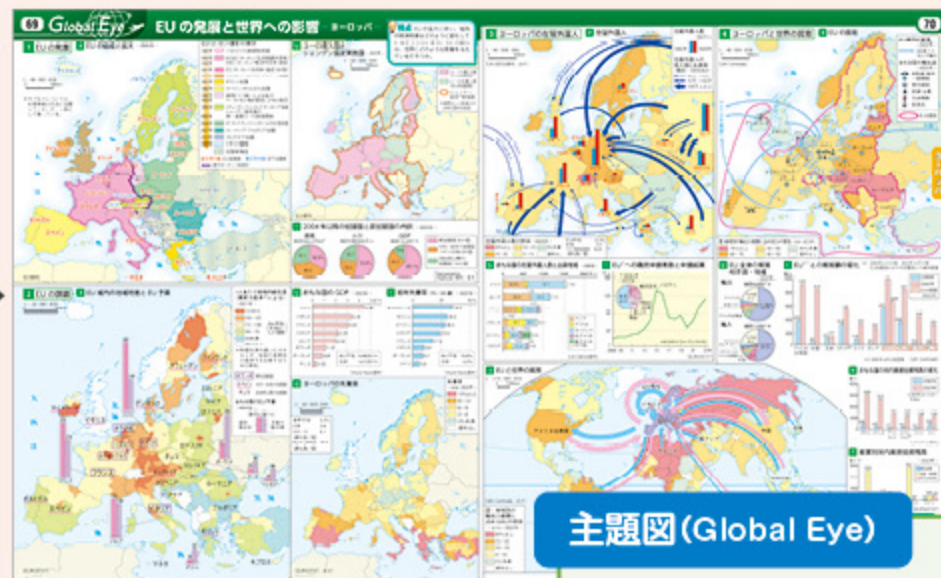
▲ p.53-54



主題図 (基礎的資料)

自然、産業、生活文化など豊富なテーマを取り扱っています。地域のより詳しい様子をとらえられます。

▲ p.67-68
➡ 本資料p.10-11



主題図 (Global Eye)

世界の州ごとに特設ページ「Global Eye」を設置しました。地域と国際社会との結びつきをとらえられます。

▲ p.69-70
➡ 本資料p.26-27

● ヨーロッパ州の配列

ページ	種類	タイトル
p.49-50	基本図	ヨーロッパ
p.51-52	鳥瞰図	ヨーロッパの鳥瞰図
p.53-54	拡大図	ヨーロッパ中央部
p.55-56	拡大図	EU要部
p.57-58	拡大図	地中海地方
p.59-60	拡大図	イベリア半島、スイス
p.61-62	拡大図	イタリア半島・バルカン半島
p.63-64	拡大図	イギリス・アイルランド、スカンディナヴィア半島
p.65	拡大図	ロンドン、パリ、ベルリン
p.66-68	主題図	ヨーロッパ主題図 (基礎的資料)
p.69-70	主題図	[Global Eye]EUの発展と世界への影響

特色 ①

特色 ②

特色 ③

地図帳活用例

QRコンテンツ

関連教材

全体構成

特色

1

地域の特色が深く理解できる構成・表現!

基本図・拡大図から地域主題図まで、
さまざまな用途に対応できる構成

基本図

●基本図は、国名や国境、主な都市などのほか、山脈・河川などの地形の様子を広くとらえる際の基礎となる地図です。東アジア、ヨーロッパ、北アメリカなど主な地域は縮尺を1600万分の1で統一することで地域間の比較をやすくしています。

▼p.49-50

49

2 国境の変遷

(a) 第一次世界大戦前 (1914年)



(b) 第二次世界大戦前 (1938年)



(c) 第二次世界大戦後 (1949年)



(d) 現在 (2025年)

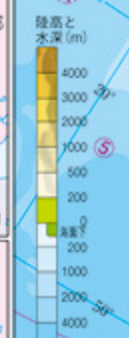


18 読図 ヨーロッパの国々は、およそ緯度何度から何度の間に位置しているだろうか。

EU加盟国 北海の境界* *経済的資源を管理する権利などに関する国際的な境界。



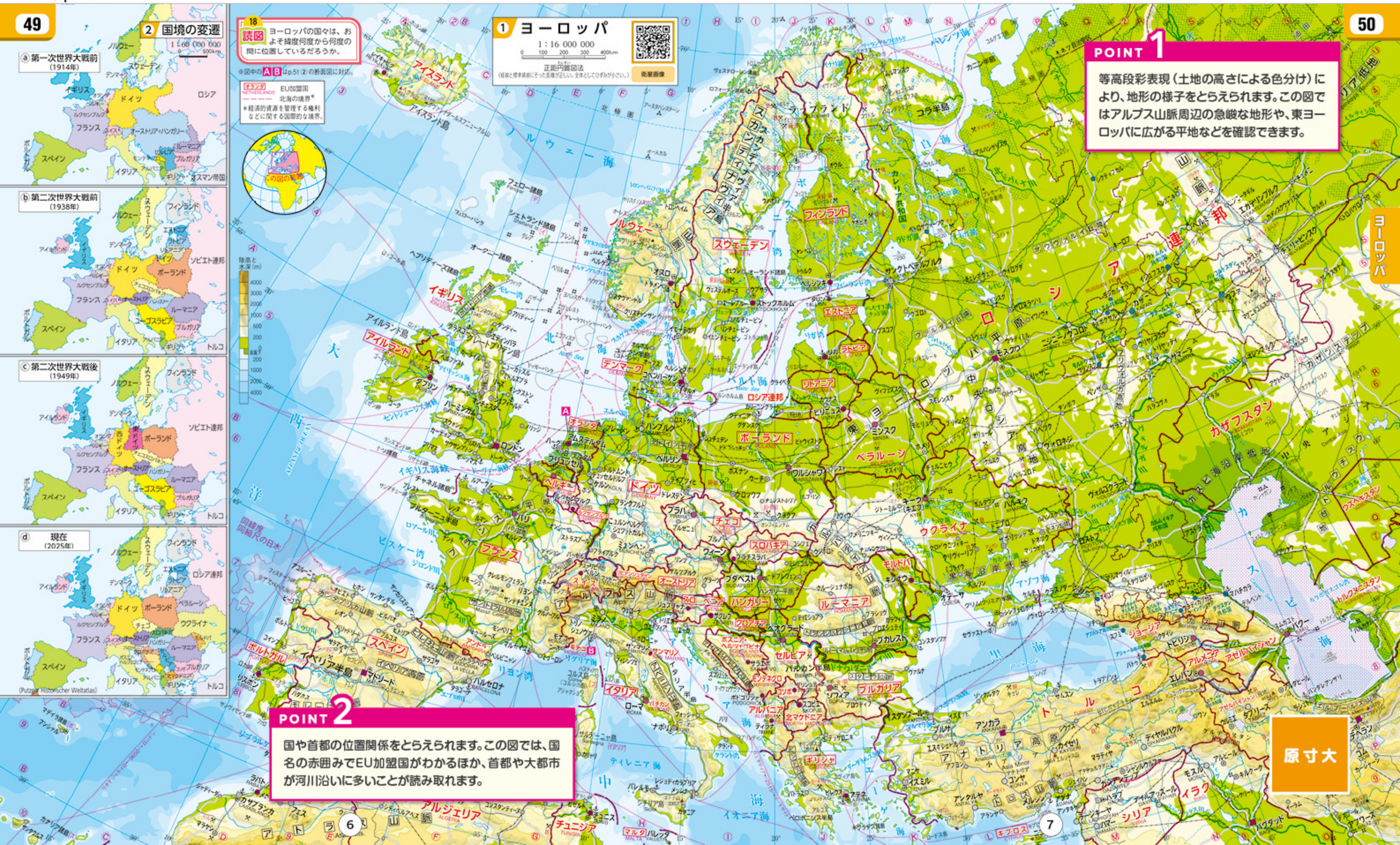
1 ヨーロッパ 1:16 000 000 正距円筒図法



POINT 2 国や首都の位置関係をとらえられます。この図では、国名の赤囲みでEU加盟国がわかるほか、首都や大都市が河川沿いに多いことが読み取れます。

POINT 1 等高線表現(土地の高さによる色分け)により、地形の様子をとらえられます。この図ではアルプス山脈周辺の急峻な地形や、東ヨーロッパに広がる平地などを確認できます。

原寸大



特色

1

地域の特色が深く理解できる構成・表現!

基本図・拡大図から地域主題図まで、
さまざまな用途に対応できる構成

鳥瞰図

●鳥瞰図は、地形が読み取りやすいように立体的に表現しています。地図帳ではさらに、自然・産業・生活がイメージできるイラストを多数配置しています。断面図や雨温図、写真資料と合わせて、地域の特色を大観でき、単元の導入や復習などでご利用いただけます。

▼ p.51-52

51

1 ヨーロッパの鳥瞰図

◎ おもな都市の標高 (m)

POINT 1

急峻なアルプス山脈やケスタ地形のパリ盆地が視覚的にとらえられます。



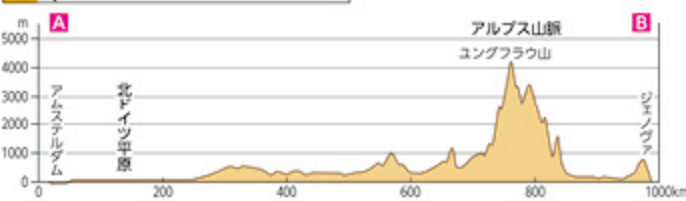
●鳥瞰図設置箇所一覧(全3テーマ)

ページ	タイトル
p.13-14	中国の鳥瞰図
p.51-52	ヨーロッパの鳥瞰図
p.81-82	北アメリカの鳥瞰図

POINT 2

シチリア島の火山、ウクライナの小麦の収穫、スエズ運河のコンテナ船、各都市の歴史的建造物など、地域を特徴づけるイラストを通して、ヨーロッパの自然・産業・生活を大観できます。

2 p.49-50 A-B間の断面図



3 おもな都市の気温と降水量



4 a フィヨルド(ノルウェー) 氷河が削ったU字谷に海水が浸入した、奥深い入り江である。



5 b ぶどうの収穫(フランス) 水はけのよい丘陵の斜面で栽培されることが多い。おもにワインの原料となる。



6 c 高潮で浸水したヴェネツィア(イタリア) 低地のため、低気圧や風などの影響で高潮被害にあいやすい。



19 読図 ①・②図から、ヨーロッパの地形は、アルプス山脈とその北側でそれぞれどのような特徴があるかを読み取ろう。また、この特徴を p.206 図で確認しよう。

原寸大

特色

①

地域の特色が深く理解できる構成・表現!

基本図・拡大図から地域主題図まで、
さまざまな用途に対応できる構成

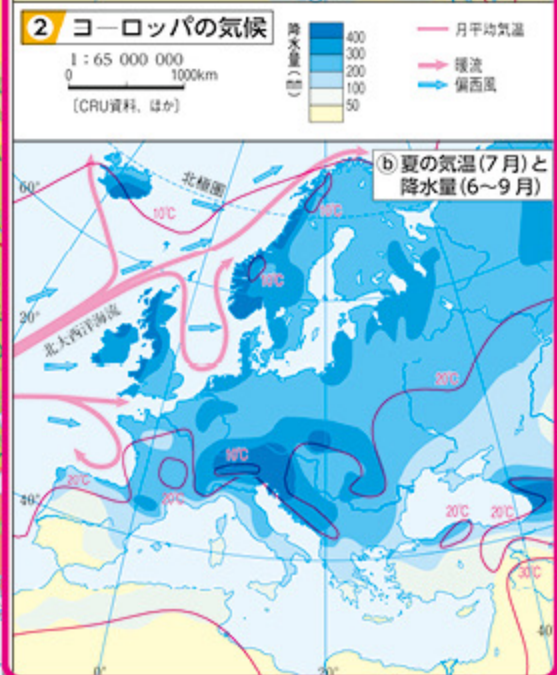
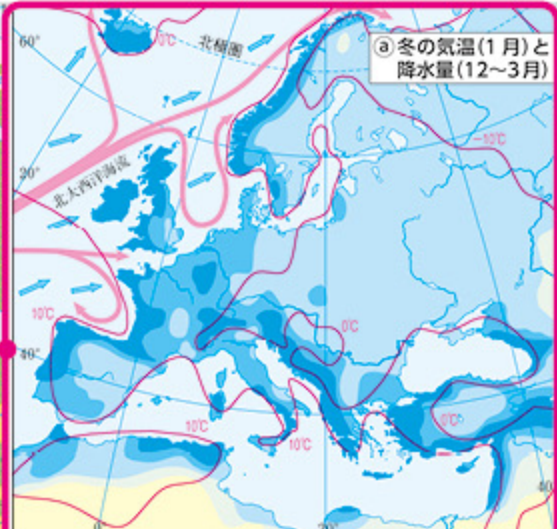
主題図

▼ p.67-68

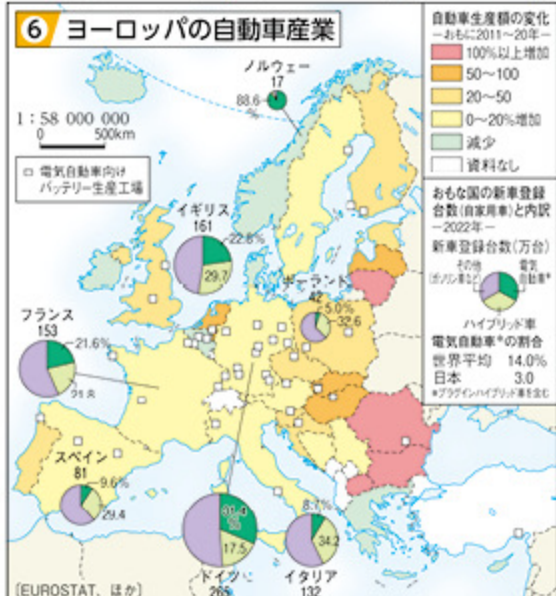
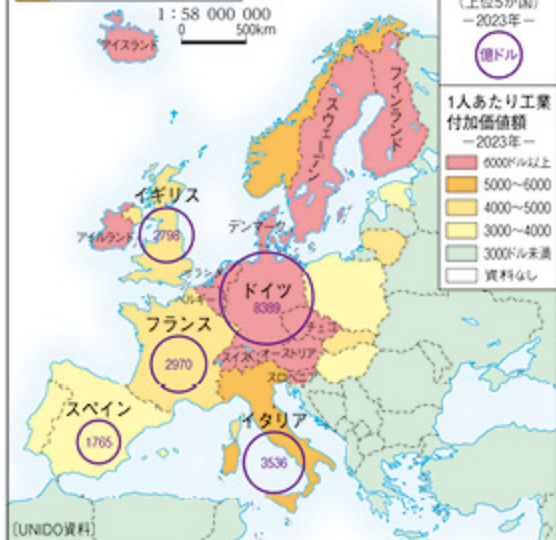
●主題図は、自然、産業、言語や宗教などの基礎的な資料から地域を特徴づけるテーマまで幅広く扱っています。特に農業・工業などの使用頻度の高い、基礎となる図はより大きく掲載しています。

67

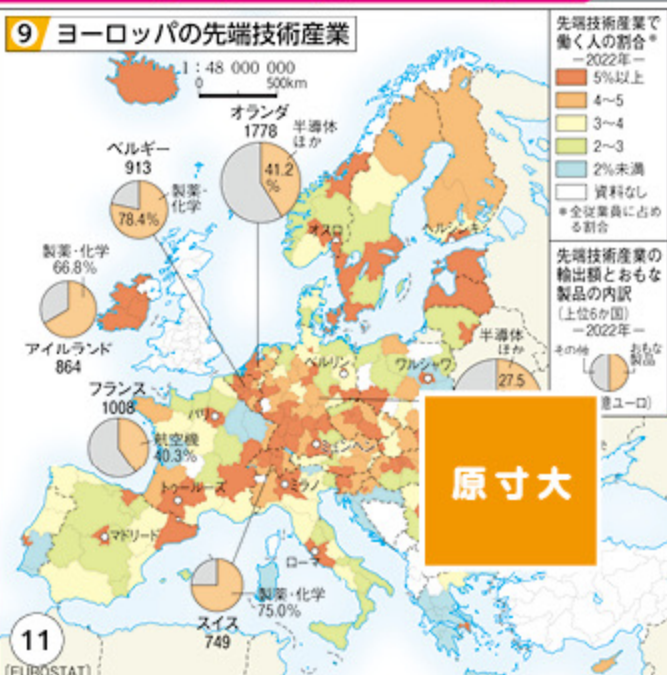
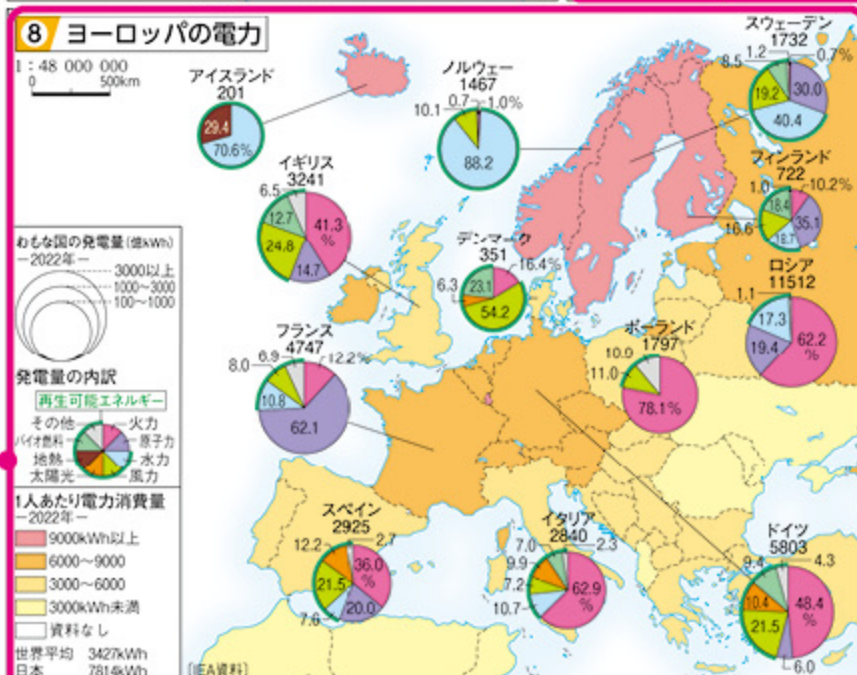
1 ヨーロッパの農業



5 工業付加価値額



7 ヨーロッパの鉱工業



原寸大

特色

①

地域の特色が深く理解できる構成・表現！

▶ 地域の特色が一目でわかる等高段彩表現・

成・表現！

土地利用表現

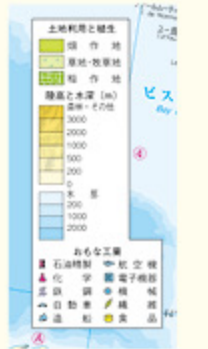
● 一般図（基本図・拡大図）では、地形や土地利用について、イメージをつかみやすいように、配色や陰影表現を工夫しています。また、文字や記号については、ユニバーサルデザインフォントの使用、文字の縁取りなどで、一つ一つを読み取りやすくしています。

▼ p.53-54「ヨーロッパ中央部」(等高段彩表現+土地利用表現)



POINT 1
耕地や森林を明るく美しい色で表現するために、通常の4色インキに「クサ色(黄緑色)」を加えた5色で印刷しています。

POINT 2
土地の高さによる色分け(等高段彩表現)と陰影表現を組み合わせることで立体感のある地図表現にしています。
拡大図では、さらに土地利用表現を加えており、この図ではポー川流域の稲作地帯が確認できます。



▼ p.45-46「アフリカ北部」(土地利用表現+植生表現)



POINT 3
国名と首都名にはユニバーサルデザインフォントを使用しています。また、重要な地名や要素の重なりで読み取りにくい文字には、白い縁取りを入れるなどして、見やすさを向上させています。

POINT 4
アフリカや南アメリカ(p.97-98)の拡大図は、植生の違いが一目で読み取れる表現で作成しています。
この図では、低緯度側から高緯度側に向けて、熱帯林→サバナ→草地(ステップ)→砂漠と植生が帯状に変化していることがとらえられます。



特色 ①

特色 ②

特色 ③

地図帳活用例

QRコンテンツ

関連教材

全体構成

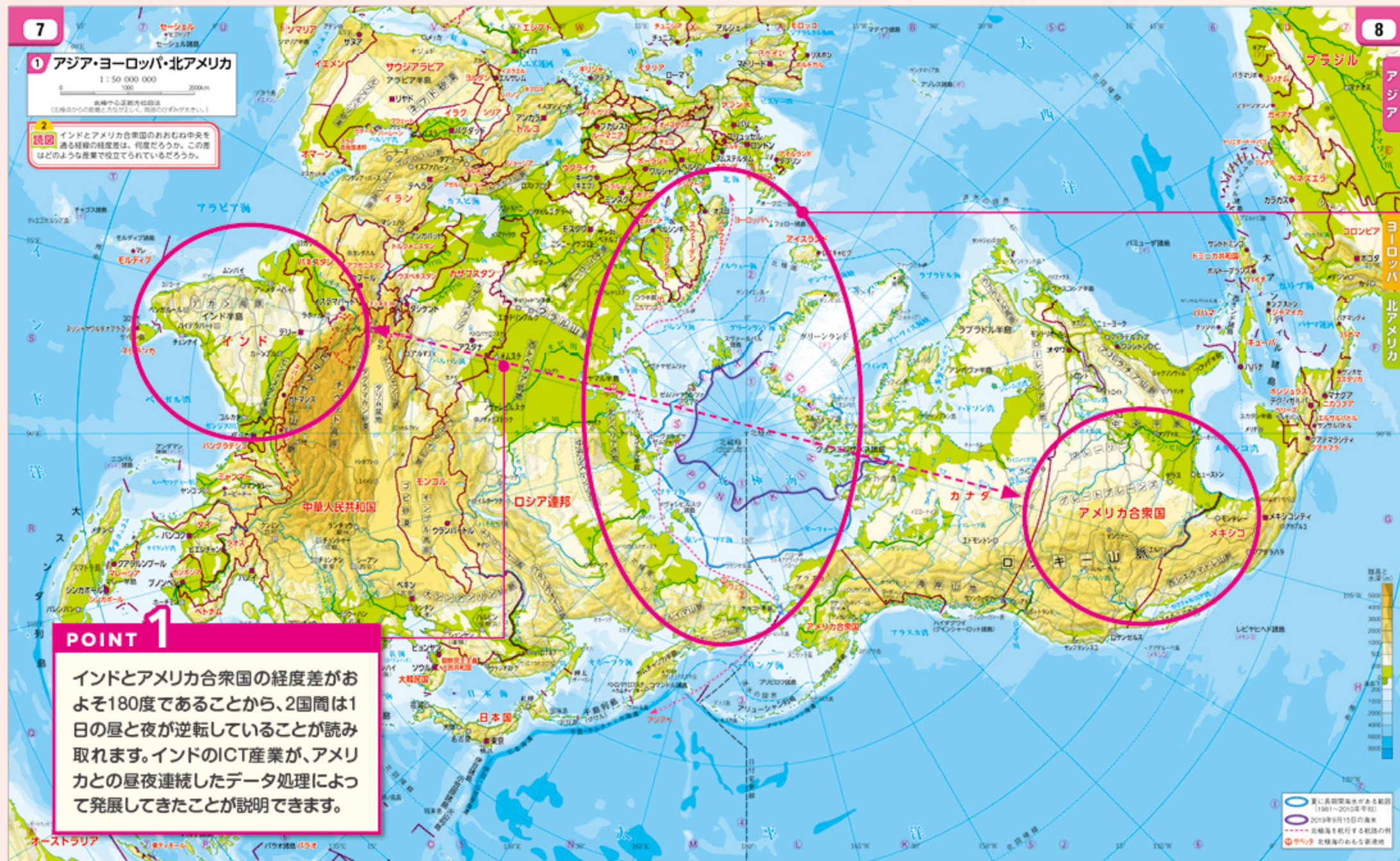
▶ 地域の特色をつかむための図取りや図法

● 一般図は、地域の特色を読み取るうえで必要な情報が収まる範囲（図取り）、学習要素をとらえやすい図法（投影法）で作成しています。また、さまざまな図法による地図を掲載することで、図法による地図の見え方の違いを1冊の地図帳の中で学べます。

● 特徴的な図取り・図法の例

ページ	タイトル	図法	図取り・特徴
p.1-2	世界の国々	ミラー図法	世界全体を見わたせます。高緯度ほど面が拡大されることなど、ミラー図法による距離・方位・面積の歪みを確認できます。
p.43-44	アフリカ	ランベルト正積方位図法	アフリカ大陸とヨーロッパが収まる図取りで、旧宗主国との位置関係も含めて、アフリカ大陸全体を見わたすことができます。
p.100	南北アメリカ・大西洋	ランベルト正積方位図法	大西洋を中心とした図取りで、大航海時代の航路など、ヨーロッパと南北アメリカ、アフリカの関係を読み取ることができます。
p.109-110	日本の位置とまわりの国々	東京中心の正距方位図法	日本の領土・排他的経済水域がわかる図取りで、東京から日本の東西南北端や周辺諸国への距離・方位が確認できます。

▼ p.7-8



POINT 1
インドとアメリカ合衆国の経度差がおよそ180度であることから、2国間は1日の昼と夜が逆転していることが読み取れます。インドのICT産業が、アメリカとの昼夜連続したデータ処理によって発展してきたことが説明できます。

POINT 2
北極海の海水氷範囲の変化や、北太平洋と北大西洋を最短で結ぶ北極海航路などが読み取れます。

POINT 3
QRコンテンツには、14種類の図法の地図を掲載しています。比較することでそれぞれの見え方の違いを確認することができます。

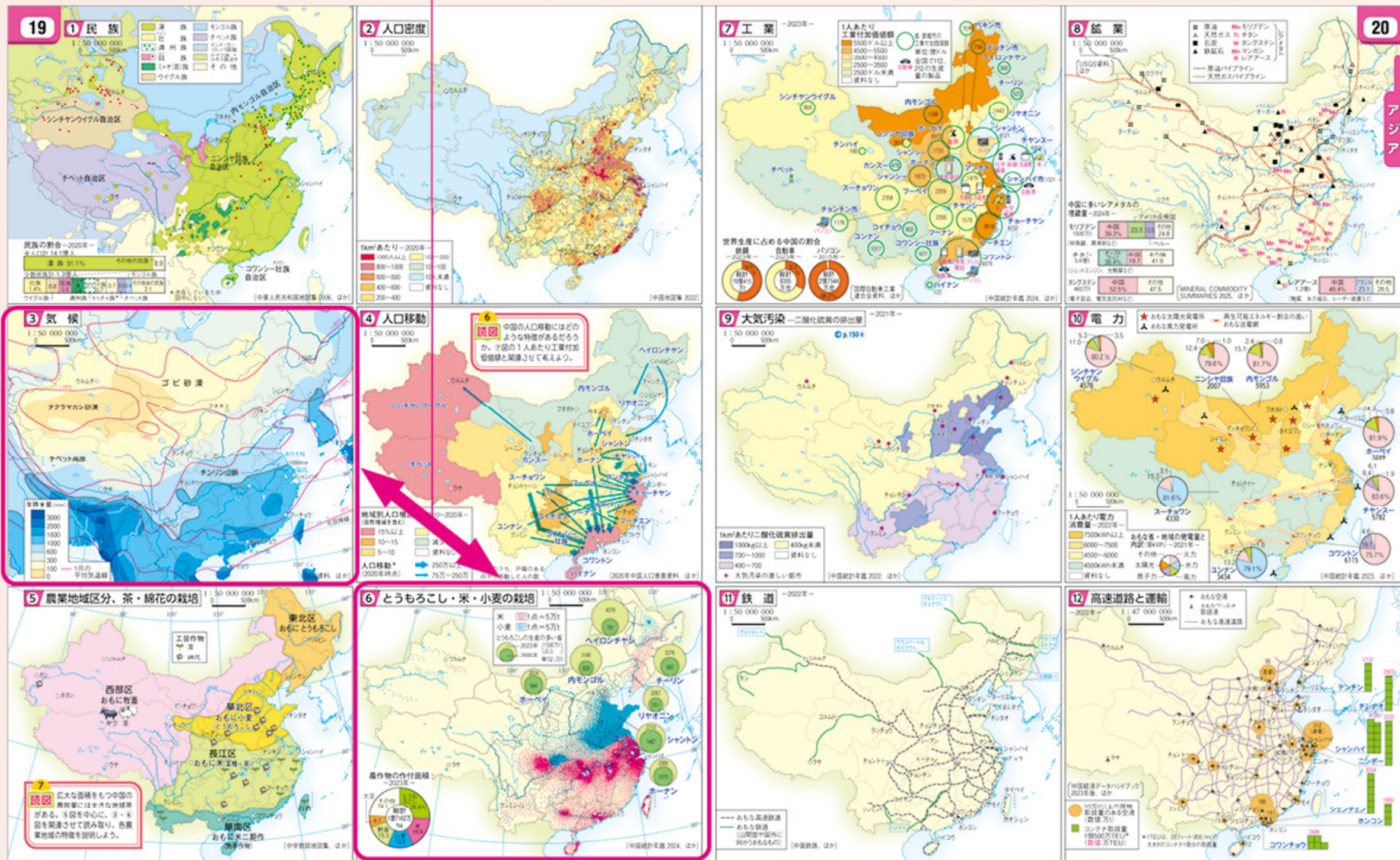
▲QRコンテンツ(地図投影法)

▶ 比較・関連させて考察できる各所の主題図

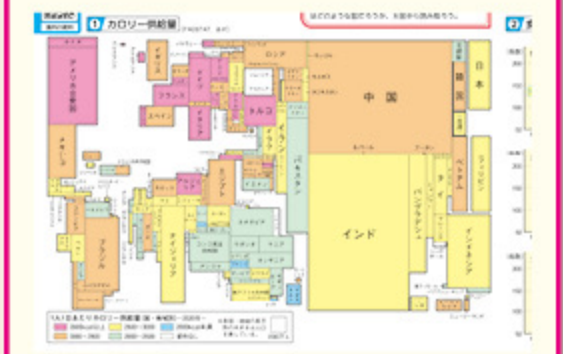
●各地域の主題図や、p.141-176、203-206の世界・日本の主題図は、可能な限り同縮尺で図を示しています。これにより図版どうしの比較が容易になり、分布の特徴や事象間の因果関係を読み取ることで、資料読解力を高められます。

POINT 1 同縮尺の③図と⑥図を比較することで、年降水量1000mmのハワイ川・チンリン山脈付近が、米と小麦の栽培地域の境界であることがわかります。

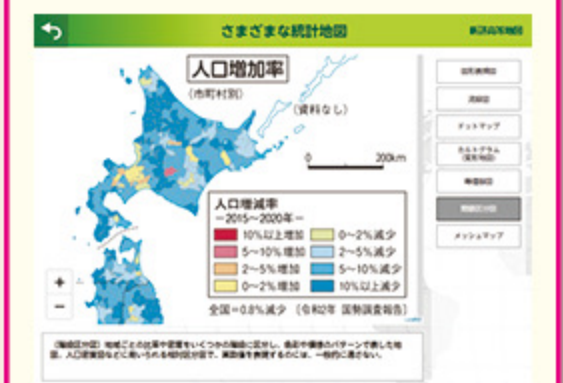
▼ p.19-20



POINT 2 地図帳に掲載した主題図は、階級区分図、図形表現図、流線図、カルトグラムなど、それぞれ事象を読み取るのに最適な表現を用いて作成しています。また、QRコンテンツには、表現の異なる7種類の統計地図を用意し、それぞれの表現の特徴について解説しています。



▲p.153(カルトグラムの例)



▲QRコンテンツ(さまざまな統計地図)

時代の様相をとらえた地図を複数新設！

数新設！

地図

▶ 注目される国際問題などをとらえた新たな

● 一般図では、近年注目されている国際問題の事例地域である、「イスラエル・パレスチナ」や「トルコ・カフカス地方」、「ヨーロッパ東部」などの図版を刷新しました。ニュースで取り上げられている地名が確認でき、問題の背景を探る主題図と合わせることで、地域の特徴がとらえられます。

POINT 2
トルコ・カフカス地方の拡大図を新設しました。拡大図と合わせて、トルコ東部を中心としたクルド人の居住地や、カフカス地方の民族の主題図を見ることで、地域紛争の背景がとらえられます。

POINT 1
イスラエル・パレスチナ周辺の拡大図を設置しました。内陸の丘陵地に分布するパレスチナ自治区や、エルサレムの宗教施設の立地などが読み取れ、パレスチナ問題をさまざまな視点から考えることができます。



NEW

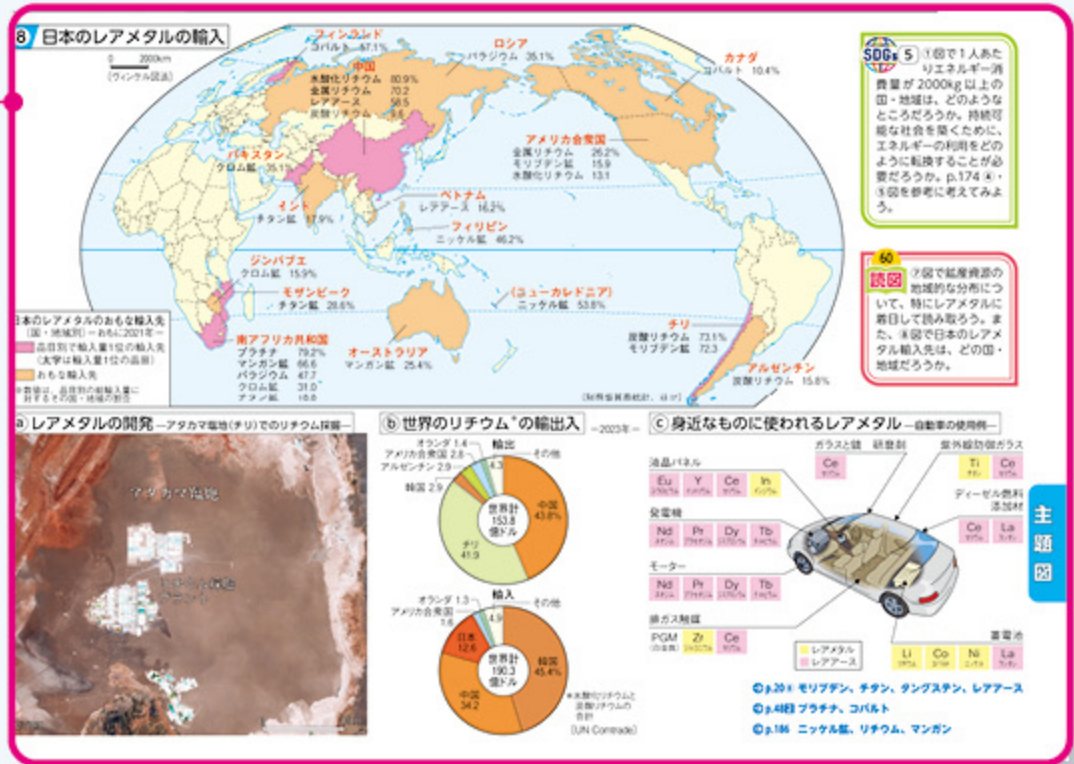
POINT 3
BTCパイプラインが原油をカスピ海からロシアを経由せずにヨーロッパへ運ぶものであることなど、エネルギー資源の観点から地域の結びつきを考察できます。

時代の様相をとらえた地図を複数新設！

▶ 注目される国際問題などをとらえた新たな地図

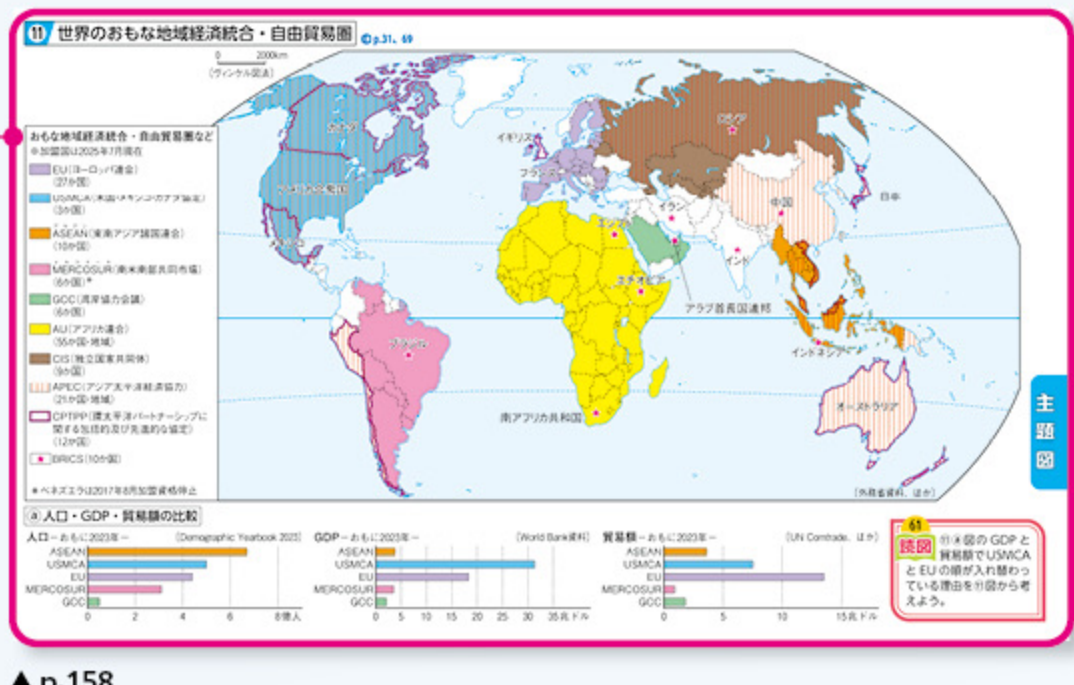
● p.141-176、203-206の世界や日本の主題図ページでは、「地球的課題」や「持続可能な国土像」などに関する最新の主題図を大幅拡充しました。レアメタルや新エネルギー、日本の地域活性化など、国内外のトピックを地図から考察できる資料を豊富に掲載しています。

POINT 1
レアメタルを題材にした主題図・グラフや模式図などを新設しました。自動車など日本の工業製品の生産に欠かせないレアメタルは、一部の国に輸入先が集中していることなどを確認できます。



▲ p.156

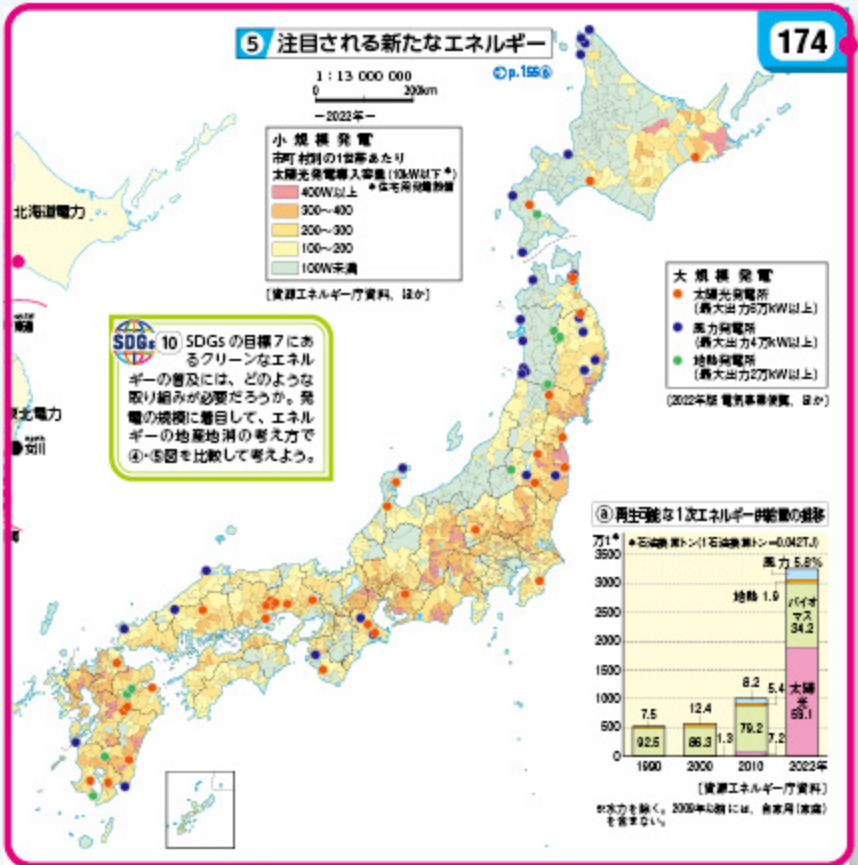
POINT 2
世界のおもな地域経済統合・自由貿易圏を示した地図を新設しました。グローバル社会の中で進む、貿易の自由化や地政学的な各国のつながりを読み取れます。



▲ p.158

数新設！

地図



▲ p.174

POINT 3
注目される新たなエネルギーの主題図を設置しました。日本の地形の主題図と比較することで、地熱発電が内陸の火山周辺に立地することなど、発電所立地の背景を読み取れます。また、近年のトピックである小規模分散発電にも着目し、地域ごとの導入率を読み取れます。

● 新設・増強したおもな主題図(世界・日本)

地域	ページ	タイトル	地域	ページ	タイトル
世界	p.151①	穀物の生産性と輸出入	世界	p.162④⑤	伝統的な衣装
	p.153③	ハンガーマップ		p.162④⑥	おもな食べ物
	p.153④	国連WFPによる食料支援		p.162④⑦	特色のある住居
	p.153⑤	成人肥満率		165③	海溝型地震の被害
	p.154⑩	遺伝子組み換え作物		p.167-168①	日本の気象災害
	p.154⑬	1人あたりの年間水使用量		p.171③	人口増加率
	p.154⑭	乳幼児死亡率と医師数		p.171⑦	合計特殊出生率
	p.154⑮	識字率		p.172⑩	地域活性化に向けた取り組み
	p.154⑯	貧困		p.172⑪	昼夜間人口比率と通勤者数
	p.154⑰	人間開発指数 (HDI)		p.172⑫	東京大都市圏の都市構造変化
	p.156⑧	日本のレアメタルの輸入	p.173①	おもな農作物の産地と土地利用	
	p.157①	世界の工業	p.173③	日本とおもな国・地域との輸出入の内訳	
	p.158⑨	先端技術	p.174⑤	注目される新たなエネルギー	
	p.158⑩	繊維	世界	p.203①	国際観光収入
	p.158⑪	世界のおもな地域経済統合・自由貿易圏	日本	p.203②	訪日外国人の入国地と訪問先
	p.160⑧	都市人口率	世界	p.203⑤	各国・地域のインターネット普及率



時代の様相をとらえた地図を複数新設！

▶ グローバルな視点で地域を探究できる

● 各地域には、世界の動きの中でその地域をとらえることができる、特設の主題図「Global Eye」を全9テーマ新設しました。最新の統計をもとに作成した、貿易・経済・産業などの情報を取りそろえ、読解のヒントになる「視点」「探究」を参考にすることで学習を、深められます。

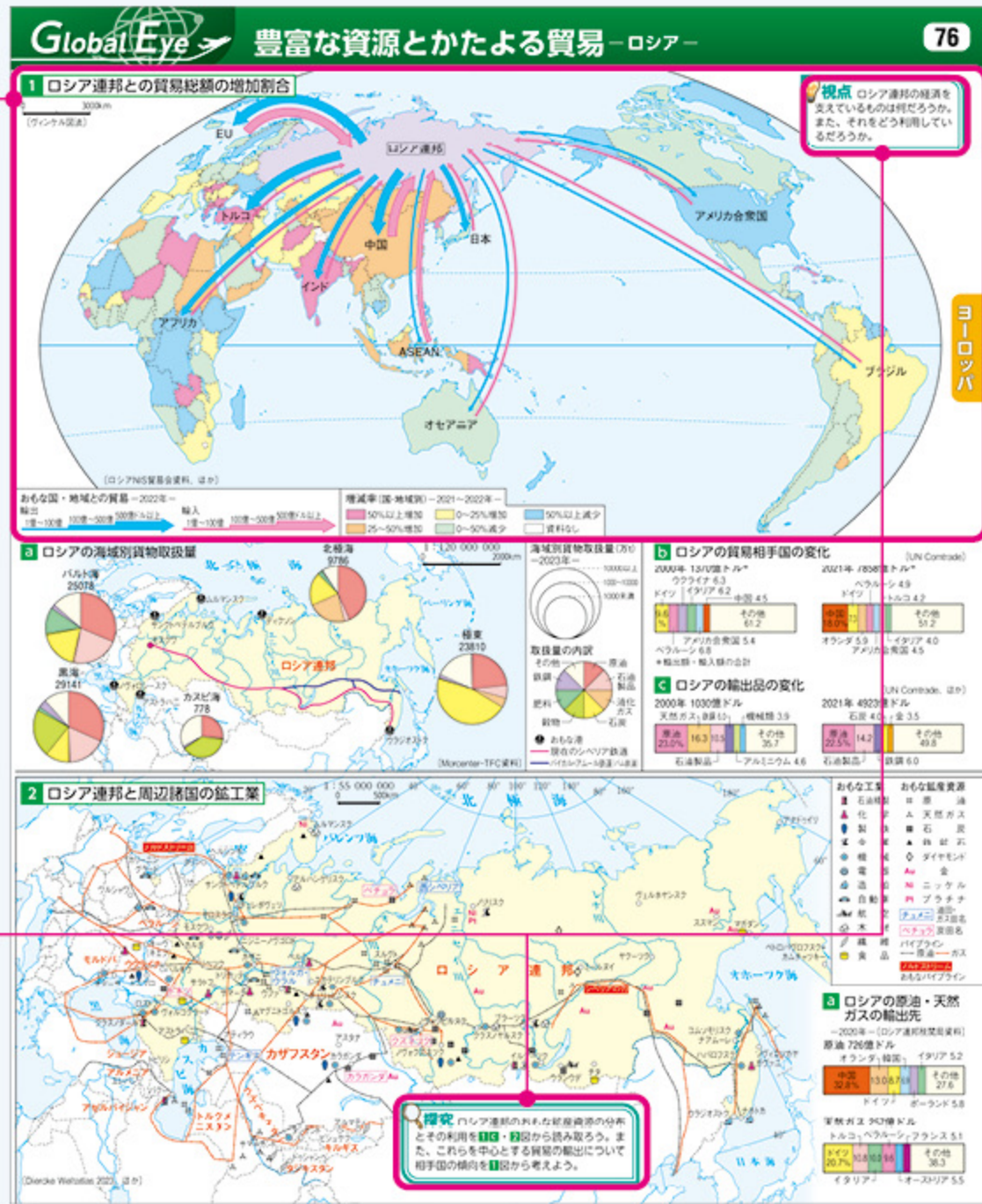
数新設！

「Global Eye」

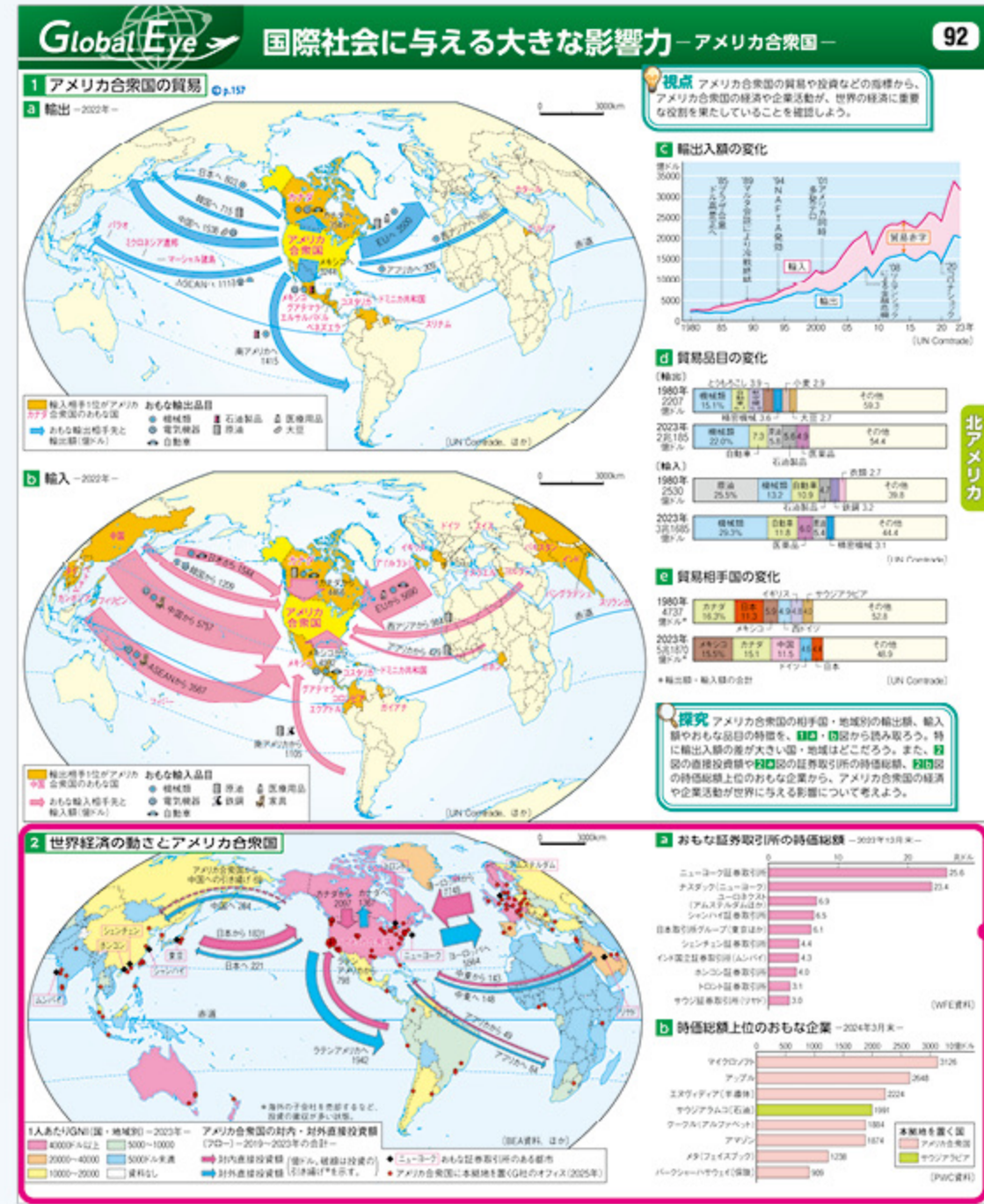
POINT 1
ロシアによるウクライナ侵攻前後の、貿易額の増減を示す資料を新設しました。貿易額が大きく増加・減少した地域を読み取ることができます。

POINT 2
「視点」は資料を読み解くためのポイントを示しています。「探究」は「視点」をもとにその地域や世界との関係について考察する問いで、深い読み解きを促しています。
▶ 本資料p.43

POINT 3
グローバル企業の台頭や、証券取引所の資料など、世界経済の中心がアメリカ合衆国である点を多角的に考察できます。



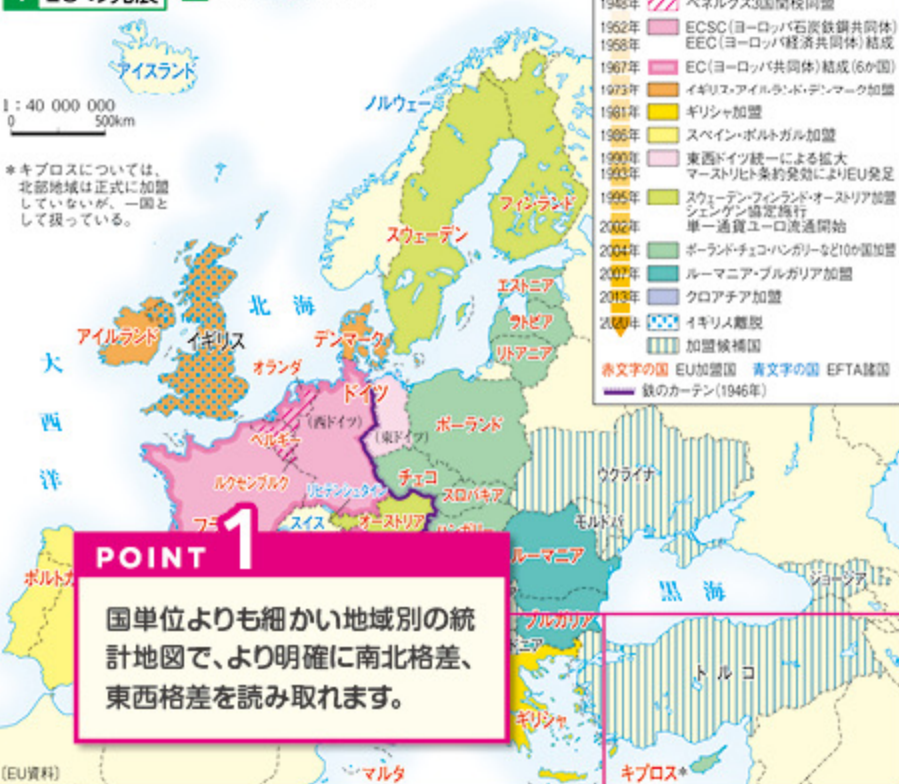
▲ p.76



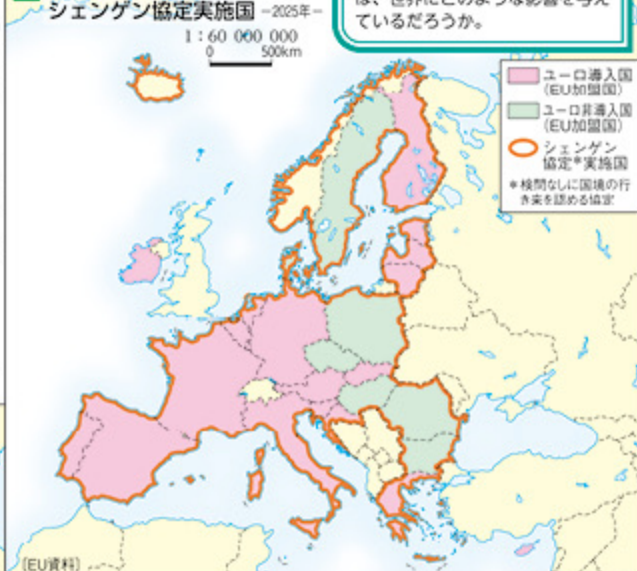
▲ p.92

69 Global Eye → EU の発展と世界への影響 - ヨーロッパ

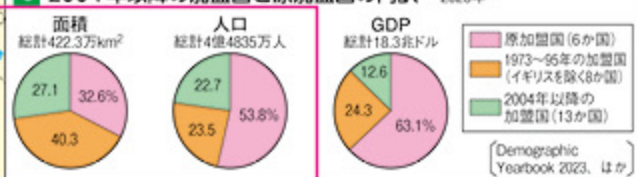
1 EU の発展 a EU の結成と拡大 - 2025年 -



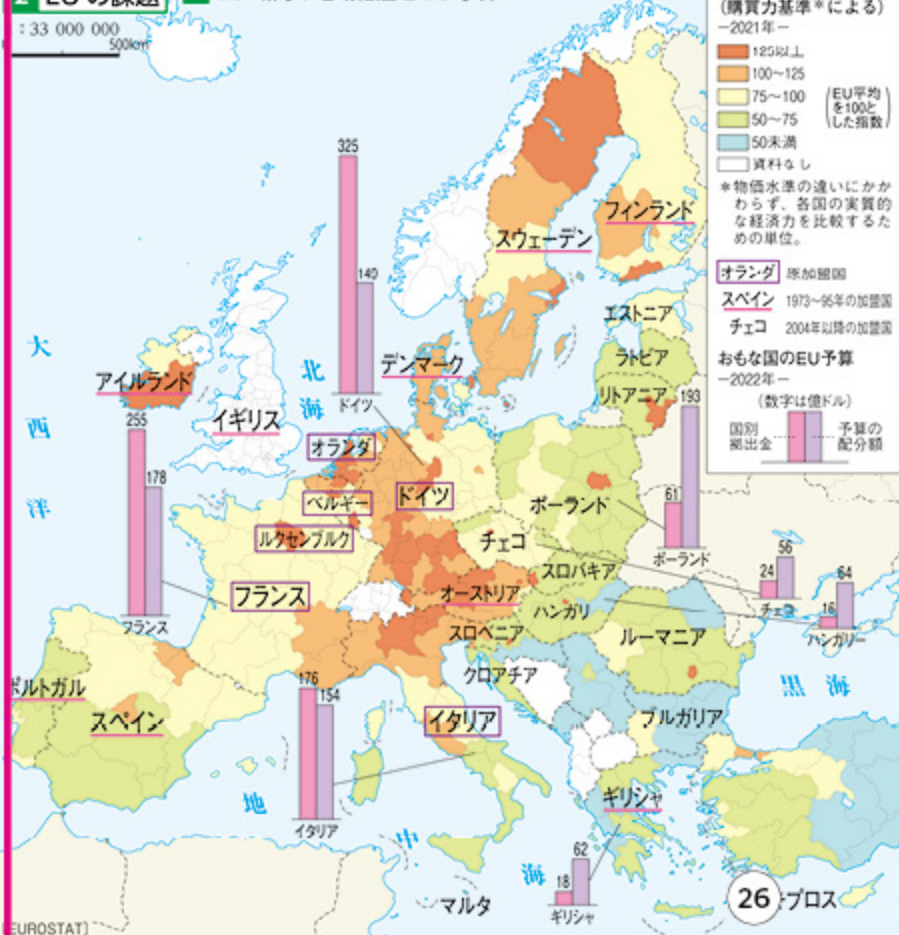
b ユーロ導入国とシェンゲン協定実施国 - 2025年 -



c 2004年以降の加盟国と原加盟国の内訳 - 2023年 -



2 EU の課題 a EU 域内の地域格差と EU 予算



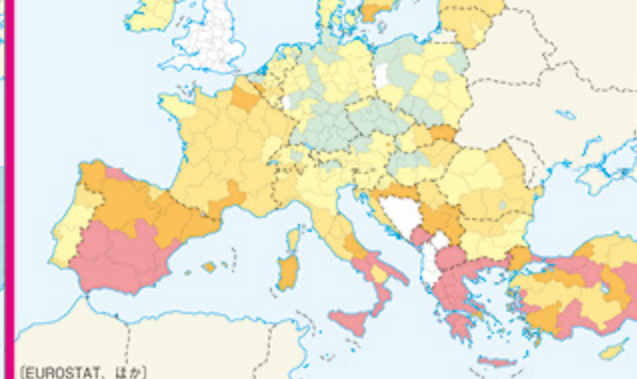
b おもな国の GDP - 2023年 -



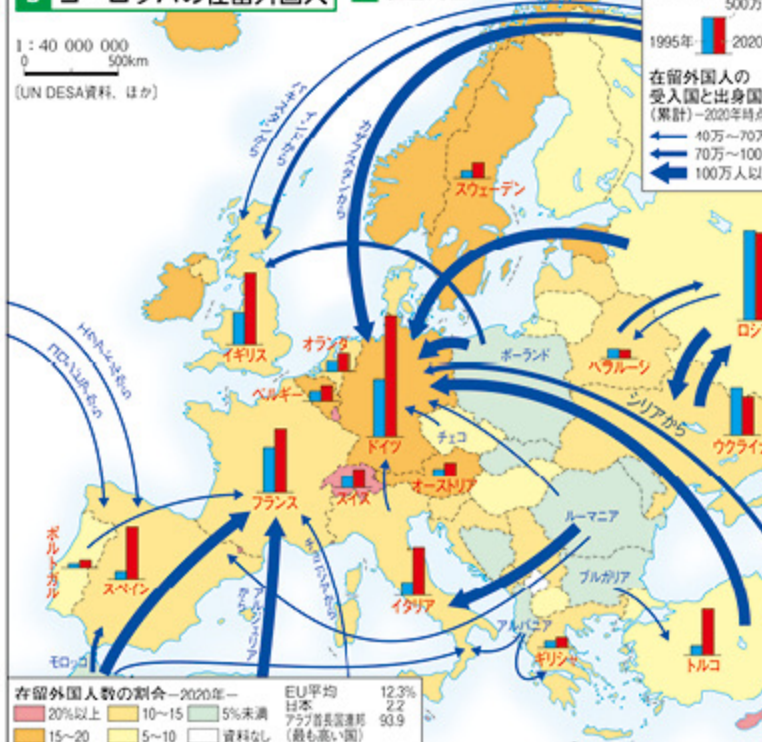
c 若年失業率 (15~24歳) - 2022年 -



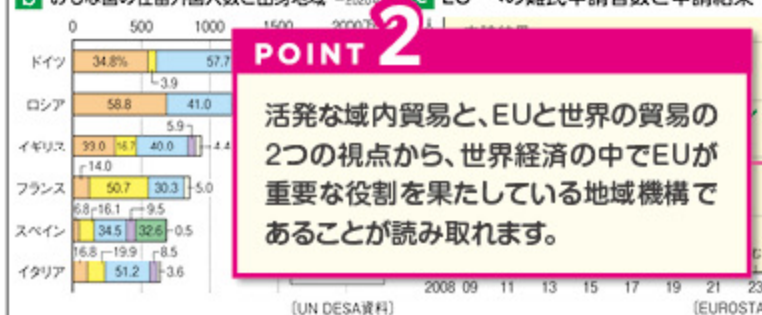
d ヨーロッパの失業率



3 ヨーロッパの在留外国人 a 在留外国人



b おもな国の在留外国人数と出身地域 - 2020年 -



c EU への難民申請者数と申請結果



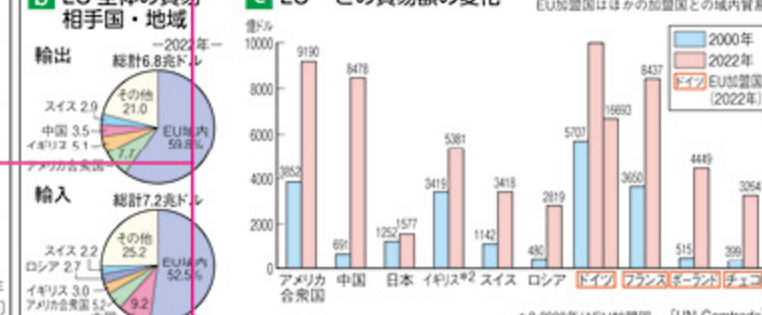
d EU と世界の貿易



4 ヨーロッパと世界の貿易 a EU の貿易



b EU 全体の貿易相手国・地域



c EU と世界の貿易額の変化



e おもな国の対内直接投資残高の変化



f 産業別対内直接投資残高



探究 1995年以前とこれ以後の拡大で、地域的な経済格差がどのように変化してきたかを、11図と12図を比較して読み取ろう。EUの拡大で、貿易や人の動きにどのような影響が出ているだろうか。13図や14図～15図から探ろう。

授業だけでなく実社会で役立つ地図

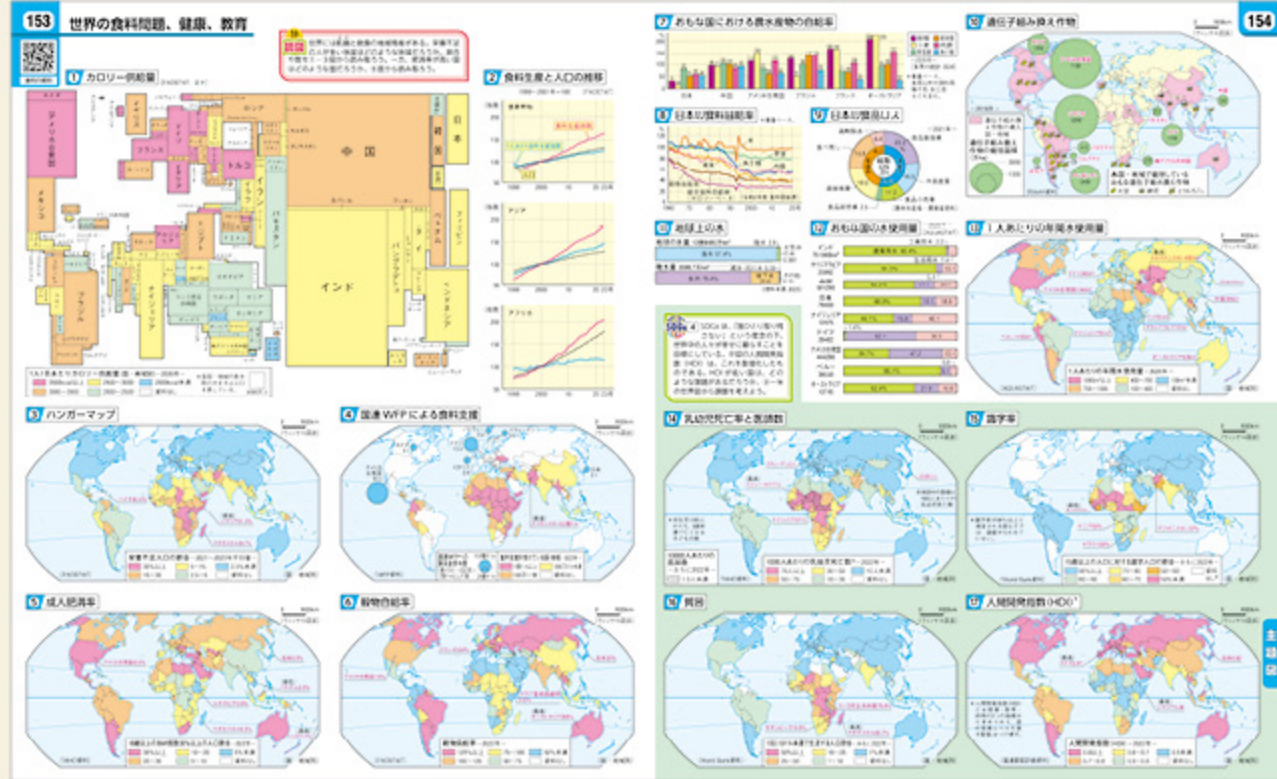
▶ 学習指導要領に対応したテーマ別主題図

と活用を促す工夫!

●世界・日本の主題図ページは現行版の32ページから40ページに大幅拡充し、地理総合・地理探究の単元に合わせた配列に見直しました。
 最新トピックを反映した図表は原則同じ縮尺で配置しており、資料を比較して考察することで読解力を養うことができます。

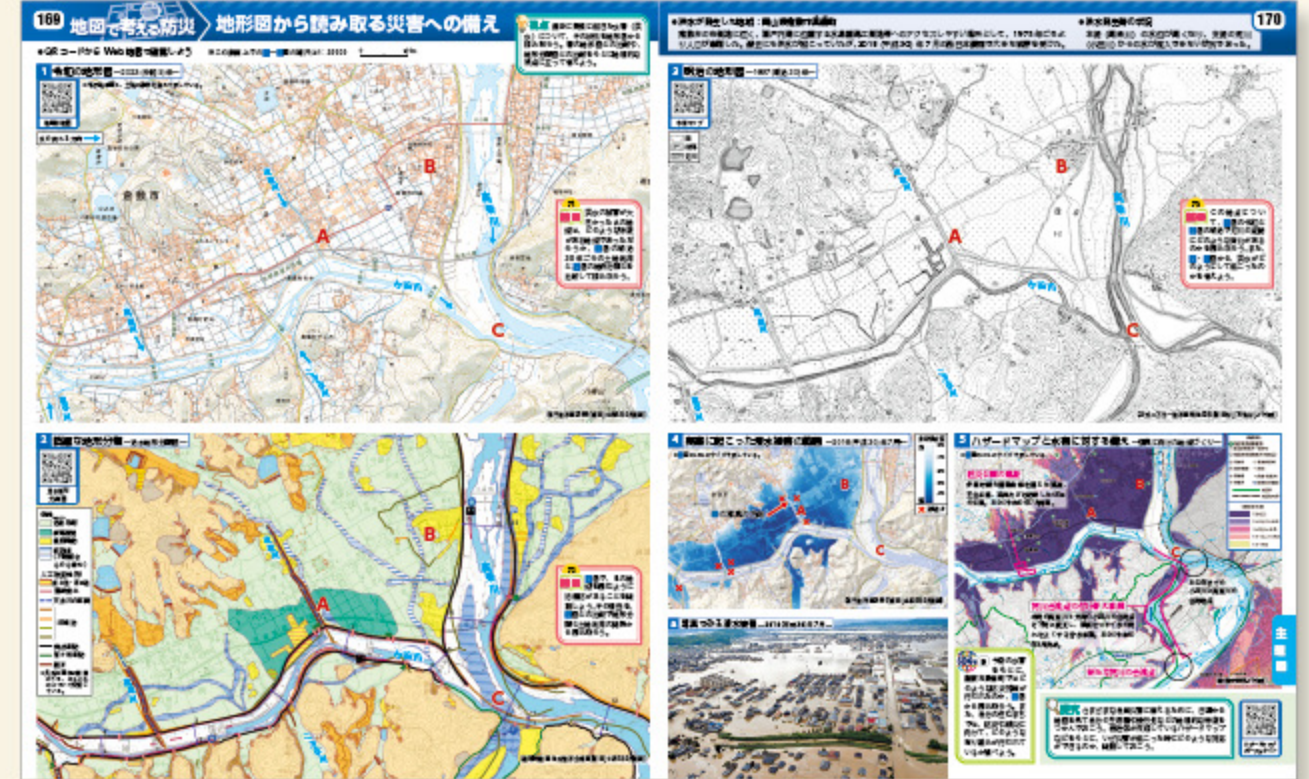
地球的課題

▼ p.153-154 世界の食料問題、健康、教育
→ 本資料p.30-31



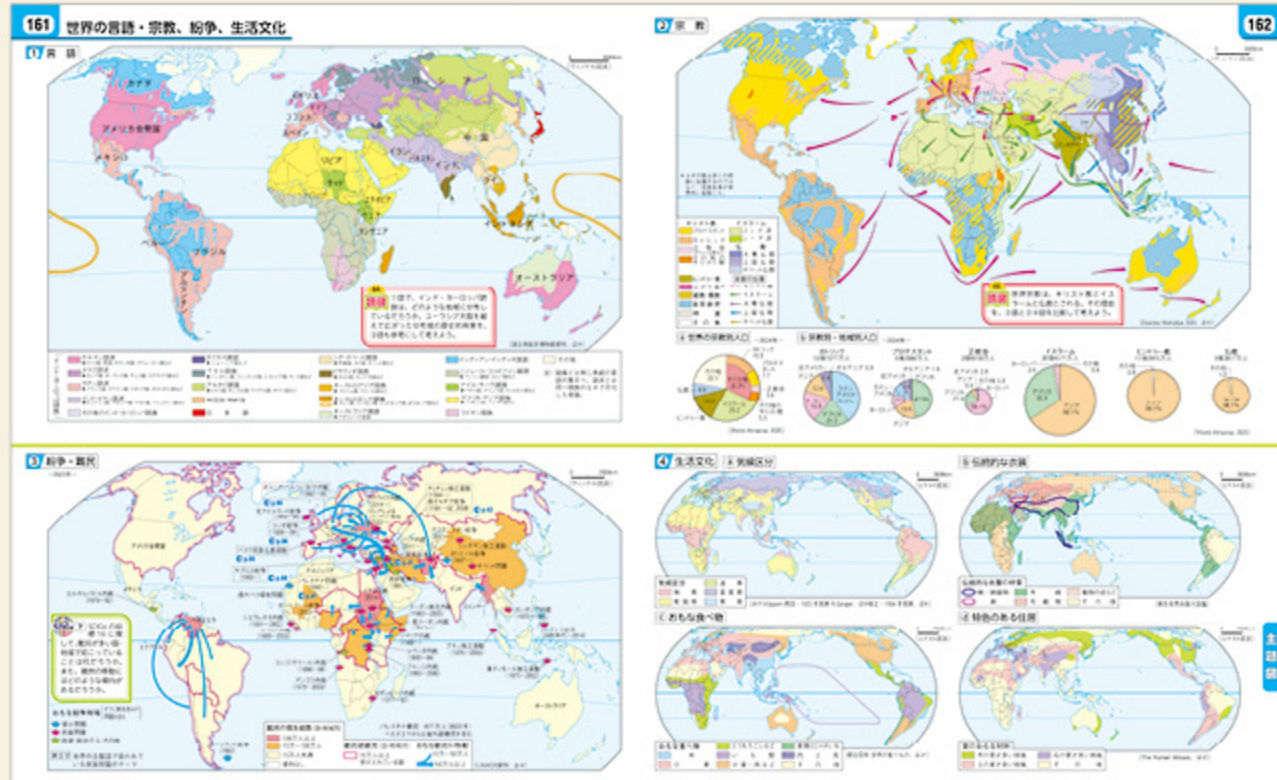
防災・GIS

▼ p.169-170 地形図から読み取る災害への備え
→ 本資料p.36-37



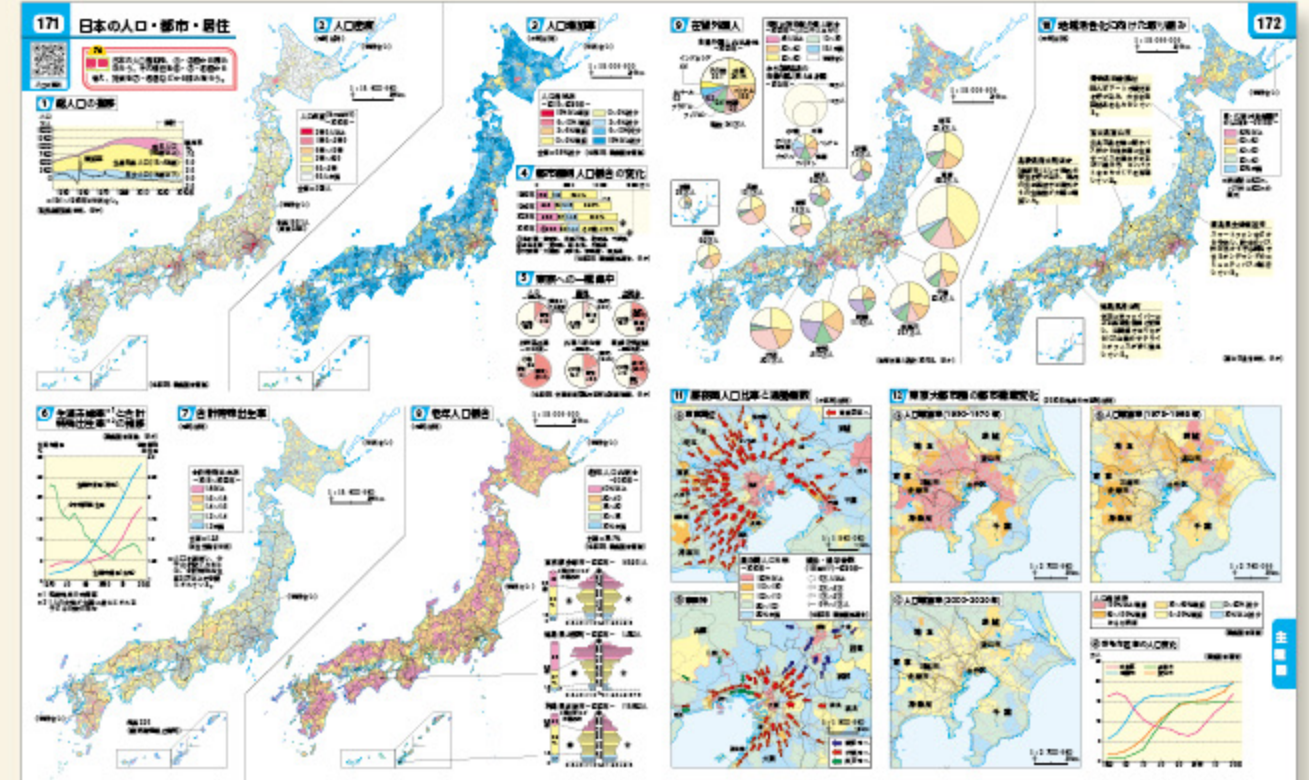
生活文化

▼ p.161-162 世界の言語・宗教、紛争、生活文化
→ 本資料p.32-33



持続可能な国土像

▼ p.171-172 日本の人口・都市・居住
→ 本資料p.38-39



▶ 学習指導要領に対応したテーマ別主題図

●特に地理総合の「地球的課題」の単元で活用できるよう、諸課題に対応した資料図ページを大幅拡充しました。地図帳ならではの比較・考察できる地図資料と関連するグラフ等で、テーマに沿った課題を追究する力を養うことができます。

●世界の主題図一覧(全12テーマ)

Table with 4 columns: ページ, タイトル, ページ, タイトル. Lists 12 themes such as 'さまざまな地形', '世界の気候', '世界の環境問題', etc.

▼ p.153-154

Main content area containing 17 thematic maps and charts. Includes '世界の食料問題、健康、教育' (153), 'おもな国における農水産物の自給率' (7), '日本の食料自給率' (8), '地球上的水' (11), 'SDGs 4' (12), '乳幼児死亡率と医師数' (14), '貧困' (16), etc.

POINT 1 各テーマの見開き冒頭には、基礎となる主題図を大きく掲載しました。このページでは、統計データを基準に地図を変形させたカルトグラムで、人口とカロリー供給の関係を示しています。カロリー供給量の大きい欧米諸国や、相対的に少ないアフリカ諸国、大きな人口を抱え必要なカロリー供給の絶対量が多いアジア諸国など地域の特性を比較し、考察できます。

POINT 2 世界の主題図とともに、関連する日本の資料も掲載しました。資料を通して、地球的課題を身近なものとしてとらえられます。

POINT 3 持続可能な開発目標(SDGs)に関連する資料を同縮尺で複数掲載しました。アフリカ諸国の識字率の低さと貧困の関係など、地域間の格差とその背景を考察できます。

▶ 学習指導要領に対応したテーマ別主題図

●特に地理総合の「生活文化」の単元で活用できるよう、自然環境、言語・宗教、産業などの主題図を拡充しました。衣装や食べ物、住居などに関する主題図を新設し、地域の生活文化が育まれてきた背景を比較しながら読み取れる構成としています。

POINT 3 「②宗教」と「③紛争・難民」を同じ見開きで設置しました。南スーダン独立の背景や、中国におけるチベット問題など、紛争の要因の1つに宗教による対立があることが推察できます。

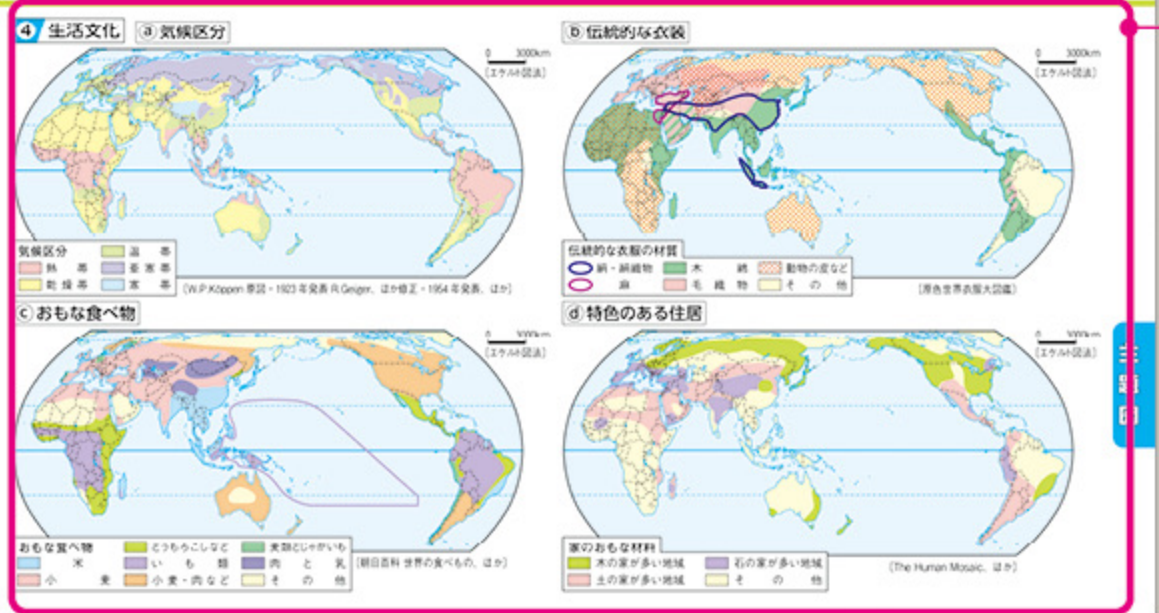
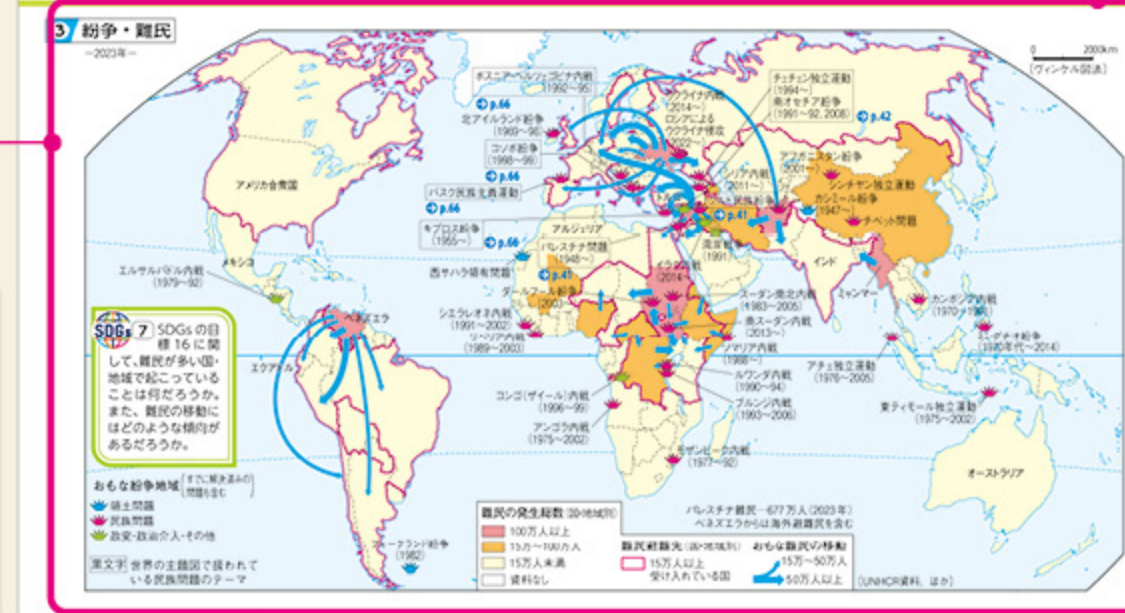
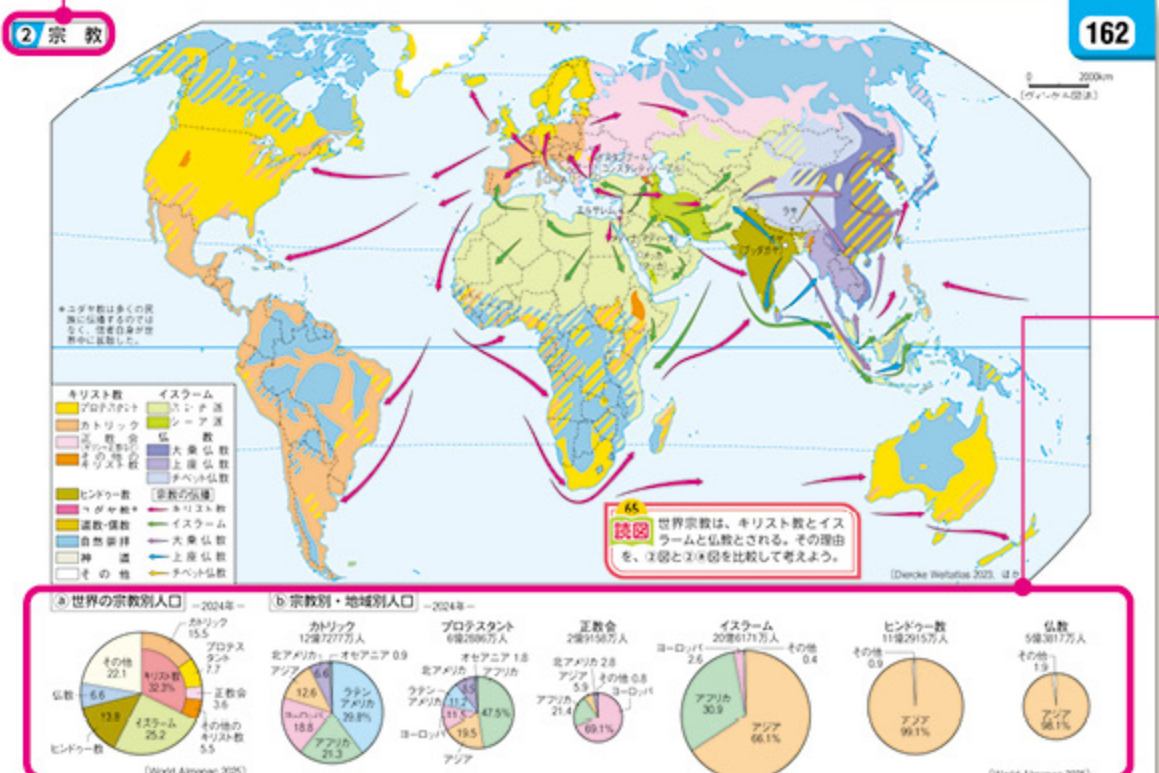
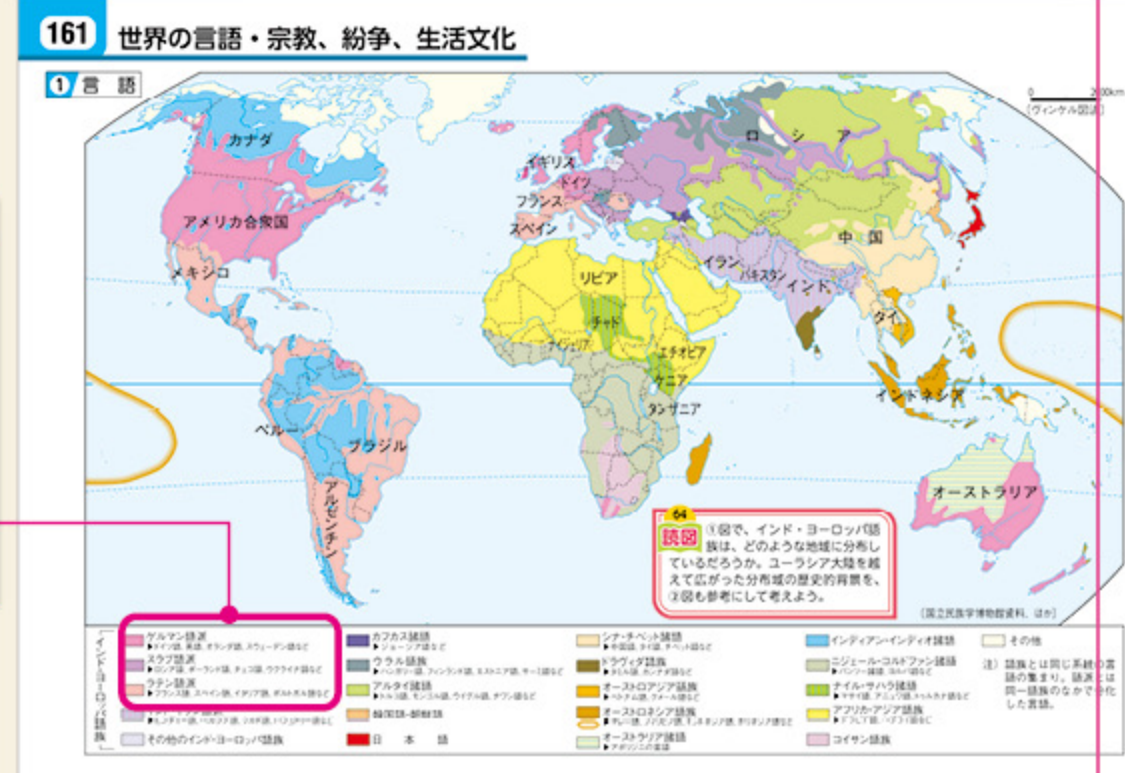
POINT 1 「①言語」と「②宗教」を横並びで配置しました。比較することでインド・ヨーロッパ語族の広がりやキリスト教の伝播の関連を読み取ることができます。

POINT 4 宗教別・地域別人口の図を設置しました。地図と比較することで、世界中に広がるキリスト教や、地域は特定されるが人口の多いヒンドゥー教など、その特徴を読み取れます。

POINT 2 世界の紛争の資料に難民の情報を追加しました。難民が発生する要因の1つに紛争があることが読み取れます。

POINT 5 世界の生活文化に関する資料として「衣装」「食べ物」「住居」の資料を新設しました。乾燥帯地域で土の家が多いことなど、同ページの「言語」「宗教」や④図「気候区分」と比較することで、各地域の生活文化の特徴が読み取れます。

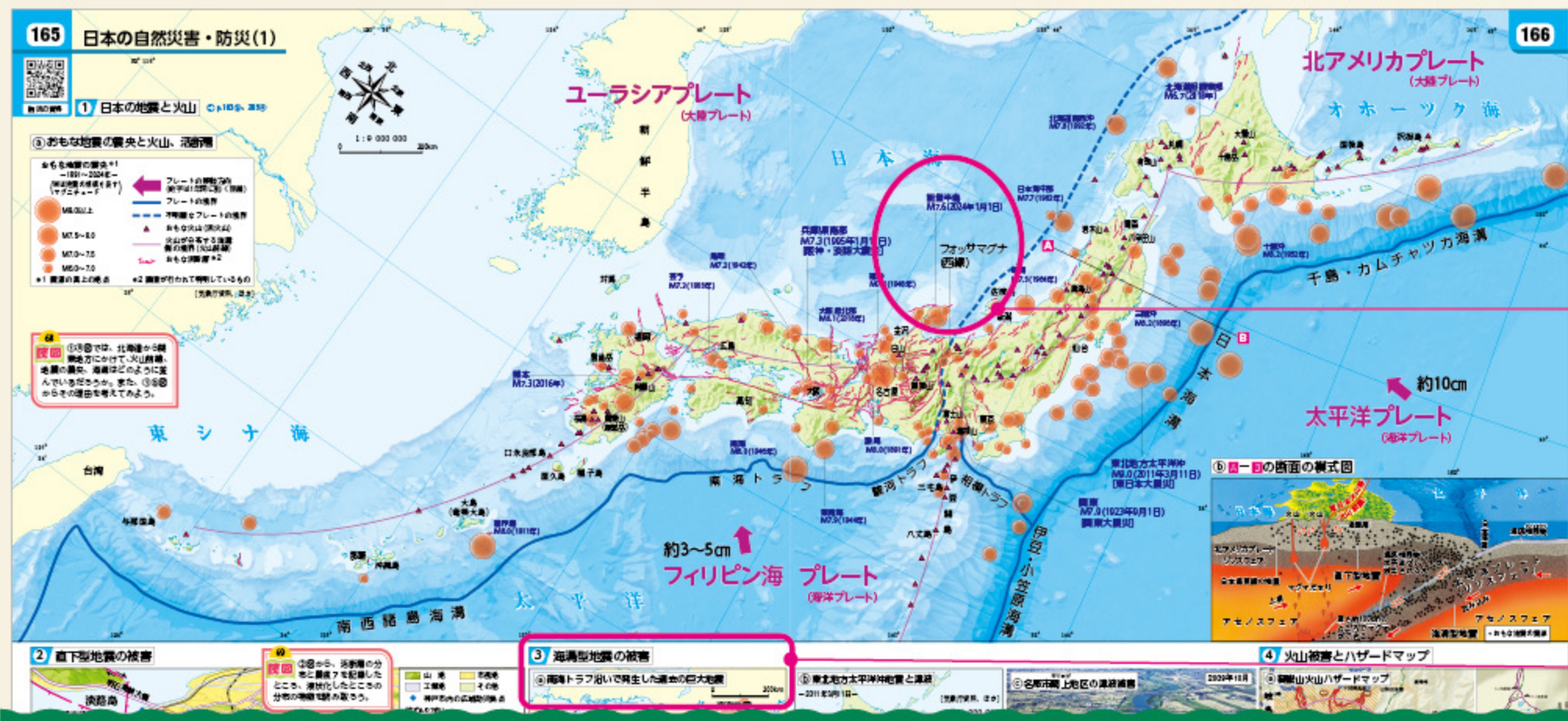
▼ p.161-162



特色①
特色②
特色③
地図帳活用例
QRコンテンツ
関連教材
全体構成

●地理総合の単元「自然災害と防災」に対応したページを現行版の2ページから6ページに拡充しました。前半4ページは、自然災害のしくみを理解するためのページとして、地震や火山による災害、気象災害を大きな地図とともに解説しています。

▶ 学習指導要領に対応したテーマ別主題図



POINT 1

日本列島が見わたせる見開きの大きな地図を2見開き同縮尺で設置しました。p.165-166で地震や火山、p.167-168で気象災害を扱い、過去の災害記録や分布が確認できます。

POINT 2

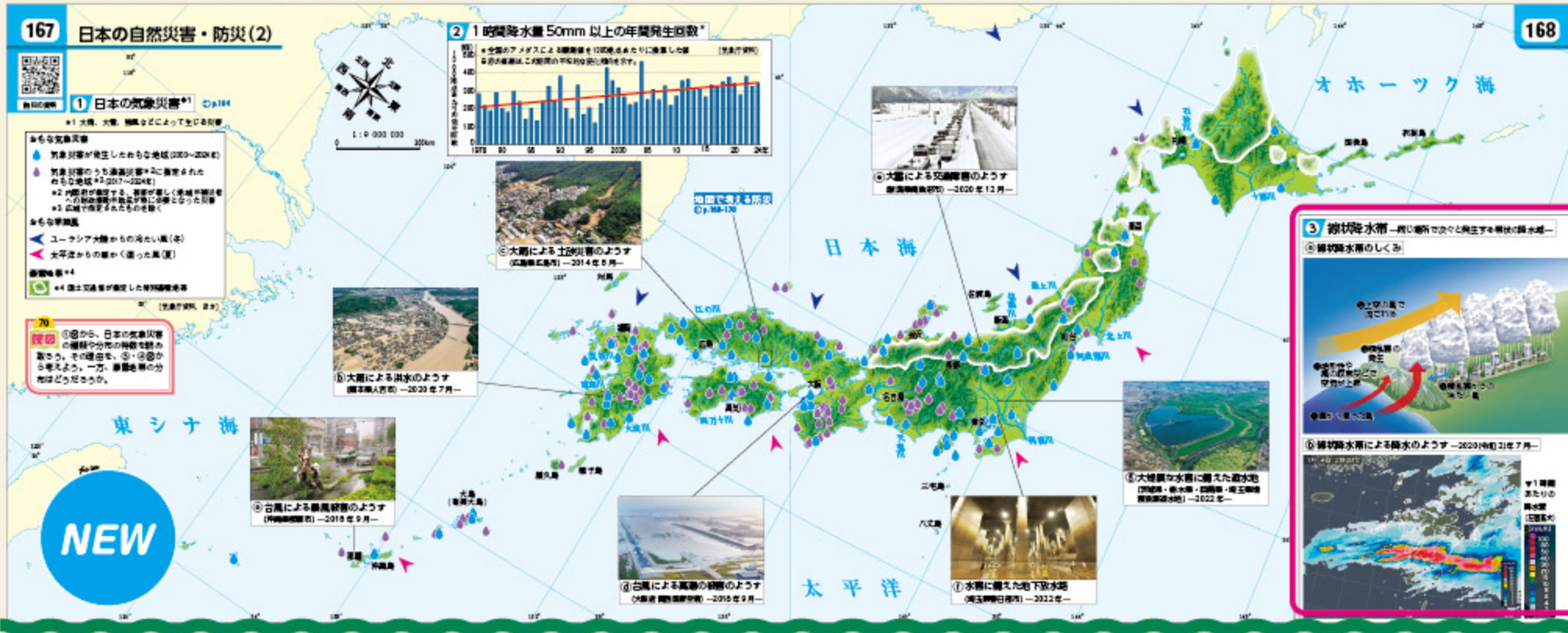
2024年1月に発生した能登半島地震をはじめ、近年発生した大規模な災害の種類や位置を確認できます。

POINT 3

各ページの下部にも関連する資料を豊富に設置しています。発生が危惧される南海トラフ沿いの地震に関する資料なども新設しました。

POINT 4

近年ニュースなどで取り上げられることの多い、線状降水帯に関連する資料を新設しました。実際の気象レーダーと模式図によりメカニズムが理解できます。



▲ p.165-166, 167-168 ▶ 本資料p.48-49

特色①

特色②

特色③

地図帳活用例

QRコンテンツ

関連教材

全体構成

授業だけでなく実社会で役立つ地図

▶ 学習指導要領に対応したテーマ別主題図

と活用を促す工夫!

●防災に関するページ(p.165-170)のうち最後の見開きには、特設ページ「地図で考える防災」を新設しました。2018年の豪雨で大きな被害を受けた岡山県倉敷市真備町を事例に、リスクと発災後の対策を考え、みずからの生活圏での調査につながる展開としています。

169 地図で考える防災 地形図から読み取る災害への備え

●QRコードからWeb地図で確認しよう ※この紙面上での1~3図の縮尺は1:32,000 0 500m

1 令和の地形図—2023(令和5)年—

電子地形図に、土地の陰影を加えて示している。

水の流れる方向

倉敷市

POINT 1

現在の地形図、地形分類図、過去の地形図を同じ縮尺で配置し、比較しやすくしました。また、読み解きの着眼点を示した「読図」を設けています。

71 読図

洪水の被害が大きかったAの地域は、どのような特徴がある地域であったのだろうか。2図の明治30年ごろの土地利用と3図の地形分類とを比較して読み取ろう。

視点を過去に実際に起きた水害(洪水)について、その状況を地形図から読み取ろう。昔の地形図との比較や、地形分類図との比較をもとに地理的な視点に立って考えよう。

【電子地形図28000「新田」令和5年9月更新】

2 詳細な地形分類—治水地形分類図—

治水地形分類図

低地
 ① 氾濫平野
 ② 後背湿地
 ③ 自然堤防
 ④ 旧河道(不明瞭なものも含む)

人工改変地形
 ⑤ 盛土地・埋立地
 ⑥ 連続盛土
 ⑦ 天井川の区間
 ⑧ 旧堤防

完成堤防
 ⑨ A
 ⑩ B
 ※凡例は図のうちの1つについて示している。

原寸大 NEW

72 読図

2図で、Bの地域を囲むように旧堤防があることを確認しよう。その理由を、3図との比較で地形分類と土地利用の関係から読み取ろう。

【地理院地図 治水地形分類図「新田」令和5年9月更新】

170 洪水発生時の状況

●洪水が発生した地域：岡山県倉敷市真備町
倉敷市の市街地に近く、瀬戸内海に位置する水島臨海工業地帯へのアクセスしやすい場所として、1975年ごろより人口が急増した。過去にも洪水が起こっていたが、2018(平成30)年7月の西日本豪雨で大きな被害を受けた。

●洪水発生時の状況
本流(高梁川)の水位が高くなり、支流の河川(小田川)からの水が流入できない状況であった。

3 明治の地形図—1897(明治30)年—

田
 村落
 河川

倉敷市

POINT 2

新旧の地形図を比較することで、過去の流路や河川改修の歴史から、災害リスクを考察できます。

73 読図

Cの地点について、1図の令和と2図の明治で河川の流路にどのような変化があるのかを読み取ろう。また、2・3図から、洪水がどのようにして起こったのかを考えよう。

【正式二万分之一地形図 明治30年「新田村」川邊村】作成

4 実際に起こった浸水被害の範囲—2018(平成30)年7月—

18図の45%のサイズで示している。

推定浸水深
 0m
 1m
 2m
 3m
 4m

× 浸水地点

POINT 3

自身の生活圏や、旅行先における災害リスクを考察する問いを設置し、自分ごととして防災を考えられるようになっています。

5 ハザードマップと水害に対する備え—復興に向けた地域づくり—

19図の45%のサイズで示している。

防災公園の建設

多目的室や簡易倉庫を備えた建屋、芝生広場、遊具などを配置した4.5haの公園。2024(令和6)年7月開園。

河川合流点の付け替え事業

本流の高梁川と支流の小田川の合流点を下流に変更し、傾斜をつけて水の流れをよくする治水事業。2024(令和6)年3月完成。

新たな河川の合流点

2023年までの小田川と高梁川の合流地点

SDG 9 今回の水害をもとに、倉敷市真備町ではどのような防災対策が行われたのか、2図から読み取ろう。また、自分の住むまちでは、防災や減災に向けて、どのような取り組みが行われてい(37)べよう。

探究 さまざまな自然災害に備えるために、日頃から地図を見て自分の生活圏や旅行先などの地理的特徴をつかんでおこう。自治体で作成しているハザードマップなどをもち、いざ災害が起こった際どのような対応ができるのか、確認しておこう。

【倉敷市資料より作成】

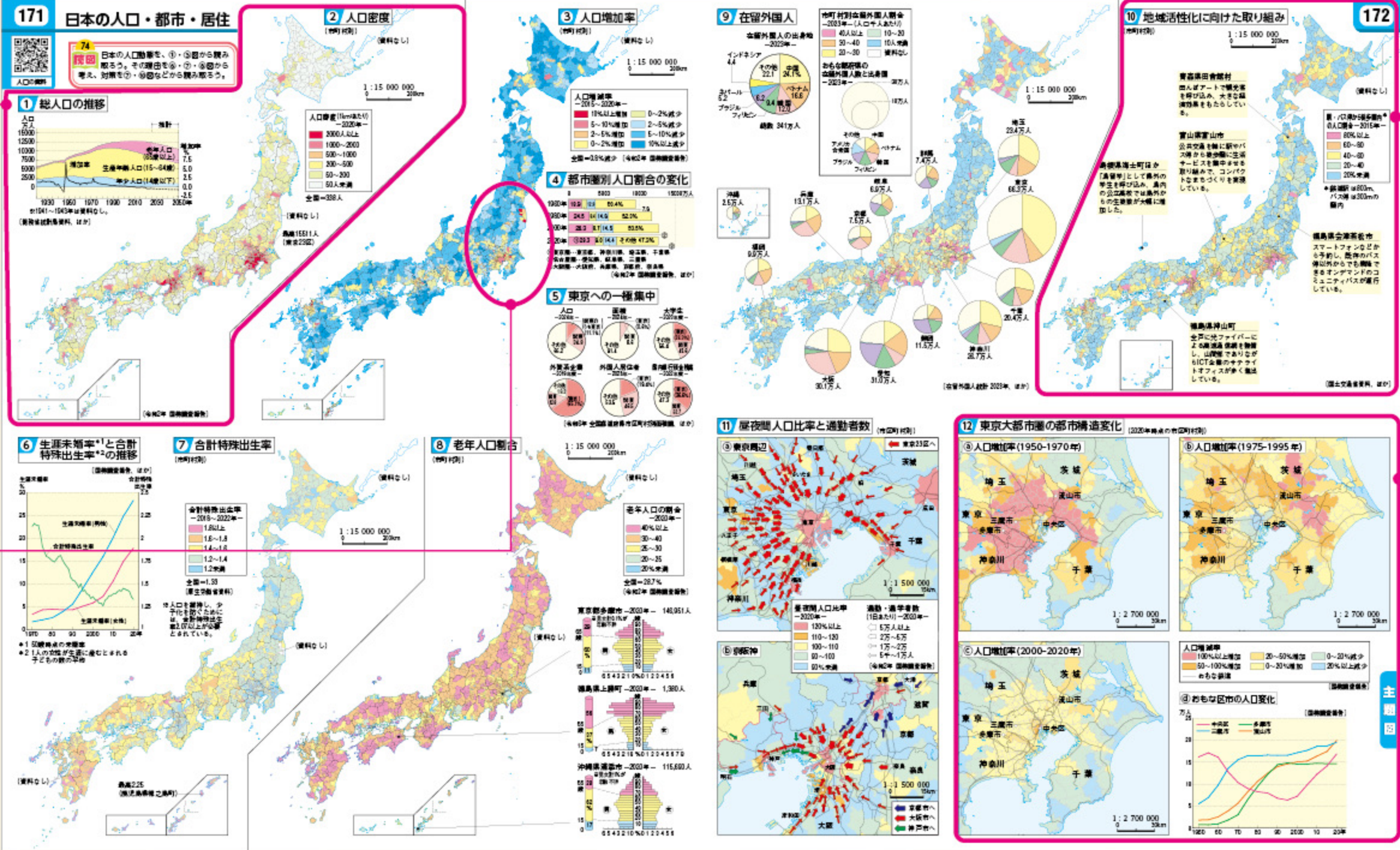
学習指導要領に対応したテーマ別主題図

●地理探究の「持続可能な国土像の探究」の単元で活用できるよう、日本国内の主題図を現行版の6ページから12ページに拡充しました。自然や産業などの基礎的な主題図に加え、人口問題やエネルギーなど、今日的なテーマの資料を豊富に用意しました。

●日本の主題図一覧(全5テーマ)

	ページ	タイトル		ページ	タイトル
	p.163-164	日本の地形・気候	大幅拡充	p.171-172	日本の人口・都市・居住
大幅拡充	p.165-168	日本の自然災害・防災	大幅拡充	p.173-174	日本の産業・エネルギー・交通
新設	p.169-170	地図で考える防災 地形図から読み取る災害への備え			

▼ p.171-172



POINT 1

人口や都市問題に関する6つの主題図を、市町村単位かつ同縮尺で設置しました。各図を比較することで都市圏への人口集中や地方での過疎化・高齢化などが読み取れます。

POINT 2

市町村別の人口増加率の図を新設しました。太平洋ベルト地帯での増加とそれ以外の地域での減少、東京都市圏や、福島県の避難指示解除地域での顕著な増加が読み取れます。

POINT 3

地域活性化に向けた取り組みを紹介した図を新設しました。コンパクトシティやオンデマンド交通など、持続可能な地域のあり方について考察できます。

POINT 4

東京都市圏の長期的な人口変化の図を新設しました。高度経済成長期の人口増加、その後の郊外化とドーナツ化現象、近年の都心回帰などが読み取れます。

NEW

特色①

特色②

特色③

地図帳活用例

QRコンテンツ

関連教材

全体構成

見方・考え方を働かせられる「読図」コーナー

●地図を通して資料を読み取る力を身につけられる問い「読図」を計78か所設置しています。地理的な見方・考え方を働かせられるよう、現行版から設問数を増やしました。また、生徒が主体的に取り組めるようQRコンテンツに解答・解説を設置しています。

▼ p.45-46



17 読図 耕地が広がっている地域は、どのような気候だろうか。p.145①図と比較して読み取ろう。

6 読図 中国の人口移動にはどのような特徴があるだろうか。⑦図の1人あたり工業付加価値額と関連させて考えよう。



▶ p.19

▶ p.20

POINT 1

気候の主題図と比較することで、アフリカではサバナ気候の地域に耕地が多いことを読み取れるようにしています。

POINT 2

同縮尺の主題図どうしを比較することで、内陸部から工業が発達した沿岸部へ仕事を求めて人口移動があることを読み取れるようにしています。



▲ p.133-134

POINT 3 詳細な等高断彩図を読み取る作業を設置しました。断面図と合わせて、多摩川の河岸段丘や、東側の標高マイナス地帯などを読み取り、水害リスクや治水についての考察を促しています。

50 読図 地図と断面図を比較して、東京の地形の特徴を読み取ろう。また、低地の防災上の課題は何だろうか。

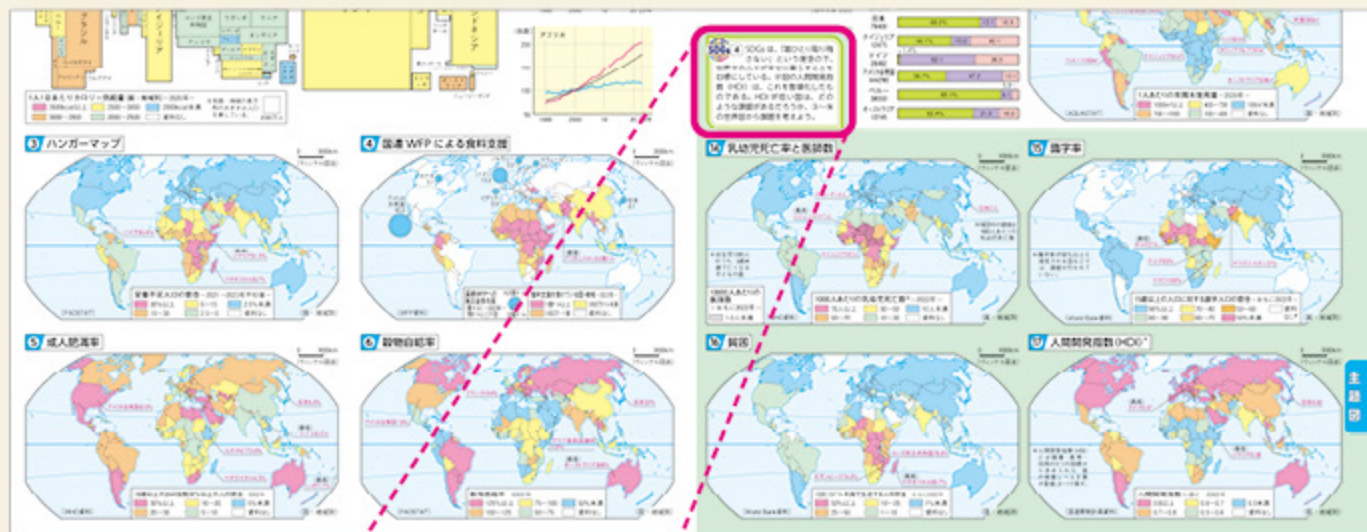
POINT 4

QRコンテンツでは、各設問の解答・解説を確認でき、生徒が主体的に「読図」に取り組めます。

読図 解答(解説) ※[SDGs]、Global Eyeページの「視点・探究」の解答(解説)も含まれます。

地図帳のページ	ページタイトル	問いの番号	解答(解説)
6	地図の発展とGISの活用	□1	地形が平らな地域に人口が分布しており、特に「関毛線」を中心に主要道路沿いの交通の便がよい地域で人口が多く、飲食店やここに多く立地している。
7	アジア・ヨーロッパ・北アメリカ	□2	インドとアメリカ合衆国の経済成長は約180度であることが読み取れる。この2国間では、一日の稼と夜が短縮しているため、データ処理業務などを進捗させていくことができるなど、特にIT産業の分野で優位に立っている。
9	ユーラシア	□3	ポリシャのアテネやボルトガルのリスボンなど(これは、ヨーロッパでは南部に位置し、日本や韓国は、ヨーロッパと比較して超大陸にあることがわかる)。
13	中国の発展地図	□4	①・②図から、中国の地形は、西部は険しい山脈や高原で、東部は比較的平坦であるという特徴が読み取れる。さらに、東部を南北に分けると、南北に幅があるなかで北部が分厚い。北は平原が広がるという特徴が読み取れる。
15	中国気候	□5	チンリン山脈とホワイ川とを隔つ線は北緯35度線に相当し、南緯には耕作地が多い。(この線は、年降水量1000mmとほぼ一致する)。
19	中国主題図	□6	中国の人口移動は、内陸部から沿岸部への動きに特徴がある。これは、沿岸部で1人あたりの工業生産額が高く、仕事を求めて農村の多い内陸部から沿岸部へ人が移動しているためであると考えられる。
19	中国主題図	□7	東江区や肇慶区は、年降水量が1000mm以上あり、米の生産が多い。東北区は、年降水量が1000mm未満で小麦の生産が多い。東北区は、1月の気温が低いことがこの生産が増えている。西部区は、年降水量が少なく冬に降雪が行われている。
22	[Global Eye] 中国	視点	[視点]の解答(解説)は「探究」内に示している。

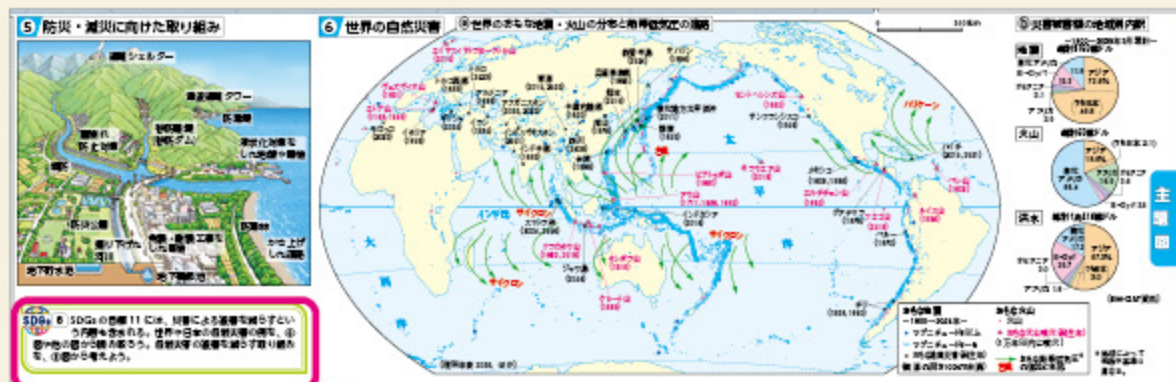
● 地球的課題を扱った世界・日本の主題図ページを中心に、持続可能な社会の実現について考察を深められる問い「SDGs」を計10か所設置しています。気候変動や生物多様性、飢餓や貧困など、SDGsの17の目標に関連した読み解きを行うことができます。



▲ p.153-154

POINT 1 SDGs 4 SDGsは、「誰ひとり取り残さない」という理念の下、世界中の人々が幸せに暮らすことを目標にしている。⑭図の人間開発指数(HDI)は、これを数値化したものである。HDIが低い国は、どのような課題があるだろうか、③～⑬の世界図から課題を考えよう。

POINT 1 国の発展レベルを数値化した⑭人間開発指数(HDI)をもとに、数値が低い国の課題を、③ハンガーマップや⑬識字率の図などから読み解く問いを設置しています。

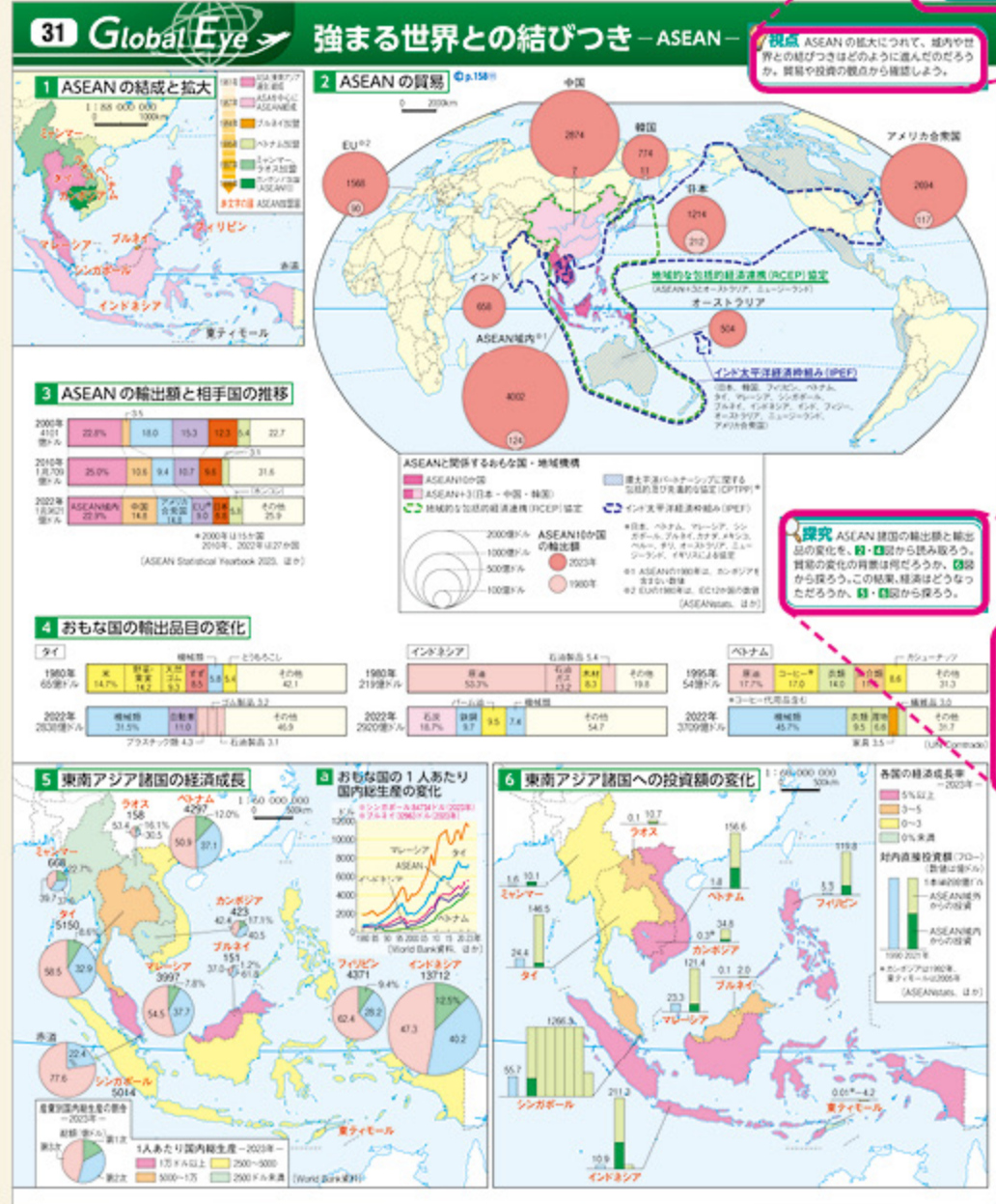


▲ p.167-168

POINT 2 SDGs 8 SDGsの目標11には、災害による被害を減らすという内容も含まれる。世界や日本の自然災害の例を、⑥図や他の図から読み取ろう。自然災害の被害を減らす取り組みを、⑤図から考えよう。

POINT 2 自然災害の例と対策を、地図や模式図から読み解き、持続可能な開発目標の実現に向けた取り組みについて考察する問いを設置しています。

● 特設ページ「Global Eye」、「地図で考える防災」には、資料探究のポイントを示した「視点」、それをもとに資料を複合的に活用し地域の特徴を読み解くための「探究」を設置しています。地理探究の授業で、より深い資料読解力を養えます。



▲ p.31

POINT 3 視点 ASEANの拡大につれて、域内や世界との結びつきはどのように進んだのだろうか。貿易や投資の観点から確認しよう。

POINT 3 探究的な読解を促すため複数資料を読み解くための観点を提示しています。

POINT 4 探究 ASEAN諸国の輸出額と輸出品の変化を、②・④図から読み取ろう。貿易の変化の背景は何だろうか、③図から探ろう。この結果、経済はどうなっただろうか、⑤・⑥図から探ろう。

POINT 4 複数の図から因果関係を導く読み解きを設置しています。ここでは、ASEAN諸国への直接投資額の増加による、貿易品の一次産品から工業製品への変化や、貿易額の拡大、急激な経済成長が読み取れます。

● 中学校からの接続を意識した、地図帳の使い方ページを新設しました。地図を構成する「点」「線」「面」の要素の読み取りの方法や、さくいん記号の見方、主題図の表現方法など、地図帳を活用するための基礎となる情報を丁寧に解説しています。

POINT 1 ページ上部のQRコードから、アニメーションによる読図の解説や、設問にアクセスできます。

POINT 2 地図の要素を「点」「線」「面」に分解してとらえる方法を解説しています。GISの学習でも重要な地図のレイヤー構造の理解にもつながります。

POINT 3 ページ上部のQRコードからWebGISのリンク集や、GISを用いた読図問題に取り組める「アクセスWebGIS」にアクセスできます。

POINT 4 GISを活用した分析をするための前提として、コンピュータやネットワークの発展による地図の形態の変化、地図を作る過程を模式図や具体的な地図を用いて示しています。

地図帳の使い方

1 本書の地図の種類

① 一般図 一般図は、世界や日本各地のことを知るための基礎となる総合的な地図です。

② ヨーロッパ

読図のポイント① 縮尺に注目しよう

縮尺は、実際の距離をどれだけ縮めたかを表します。目的に応じて縮尺の違う地図を使い分けます。

1600万分の1 (1:16,000,000) 520万分の1 (1:5,200,000)

読図のポイント② 色・記号に注目しよう

地図を構成する要素は大きく、「点」「線」「面」に分けられます。p.3の「地図帳の凡例」を参照し、地域の特徴を読み取ります。

【読図の例】 アルプス山脈より北のヨーロッパ中央部は、(面) 比較的平坦な地形を、(線) 国境を越えて河川が流れており、(点) 川沿いに首都などの大都市が立地している。

読図のポイント③ さくいん記号に注目しよう

地名を探すときには、p.189-202の「さくいん」を使用します。さくいんに示された記号は、地図上の経緯線の行列に付された「さくいん記号」と対応しています。

読図のポイント④ 主題図の表現方法に注目しよう

主題図は、自然、産業、人口など特定のテーマを通して、各地域や世界全体の特徴をつかむことができる地図です。

⑤ 工業付加価値

主題図は、色の違いや、図形の大きさで、ドットの密度などで、テーマの事象を表現しています。

【読図の例】 工業付加価値

→ 円の大きさで数値の大小を表す
→ 色の違いで数値の大小を表す
→ 階級区分

▲ p.4

● 地理総合の最初の単元である「地図と地理情報システム」に関連した資料をGIS学習の導入として冒頭に新設しました。GISの基礎概念を理解したうえで、地図帳やWebGISを活用した地理情報の考察・分析ができるようにしています。

POINT 3 ページ上部のQRコードからWebGISのリンク集や、GISを用いた読図問題に取り組める「アクセスWebGIS」にアクセスできます。

POINT 4 GISを活用した分析をするための前提として、コンピュータやネットワークの発展による地図の形態の変化、地図を作る過程を模式図や具体的な地図を用いて示しています。

地図の発展とGIS

1 さまざまな形態の地図と特徴

紙地図

- ある縮尺で、広い範囲を一度に表現しやすい。
- 目的に特化した情報が均一にまとまっている。
- 電子機器の有無を問わず、手軽に閲覧できる。

デジタル地図・GIS (地理情報システム)

- コンピュータの発達により、地理空間情報をコンピュータで加工・管理するGISの技術が普及した。
- 膨大なデータを高速で処理し、可視化できる。

WebGIS・モバイル地図

- ネットワークの発展により、場所を問わず、地理空間情報を共有・加工できる。
- 位置情報と結びつけることで、基本的に地球上のどこにいても現在地を地図上で表示できる。

2 GISを利用した地図作成

1. 地理空間情報の取得

地理空間情報は、人工衛星やドローンなどを用いたリモートセンシングデータ、GNSSによる位置情報データ、統計調査の結果などを通して取得される。

2. 地理空間情報の地図化

取得した地理空間情報は、GISの技術を用いて地図化される。GISは、階層構造を持った地図データと、地図データと結びつけた属性データで構成され、コンピュータ上で管理される。

GISを用いて作成された地図の例 (地理院地図)

3. 地図の利用・社会

リアルタイムに更新される地図

GNSSの技術を用いて、船舶の位置情報などのデータを即時に更新し、現在の状況を地図上に表現できる。

3 WebGIS*を活用した地域分析 - 栃木県足利市を事例に -

地理院地図 (足利市の基本図)

国土院が提供する地理院地図では、地形など国土の基本的な情報を確認できる。

jSTAT MAP (足利市の人口メッシュ)

総務省統計局が提供するjSTAT MAP (地図で見える統計) では、国勢調査などの統計情報を地図上で可視化できる。

RESAS (足利市の飲食店分布)

経済産業省が提供するRESASでは、国や民間企業から提供された、産業や観光などに関するデータを地図上で可視化できる。

▲ p.6

▶ 〈地理総合〉地球環境問題、都市・居住問題を事例に

地理総合

地球の課題と国際理解

地球環境問題

●教科書本文の例 熱帯林の破壊

熱帯林はさまざまな動植物のすみかとして生物多様性を保全するだけでなく、二酸化炭素を吸収して酸素を供給したり、雨水や土壌の流出を防いだりする役割を果たしている。

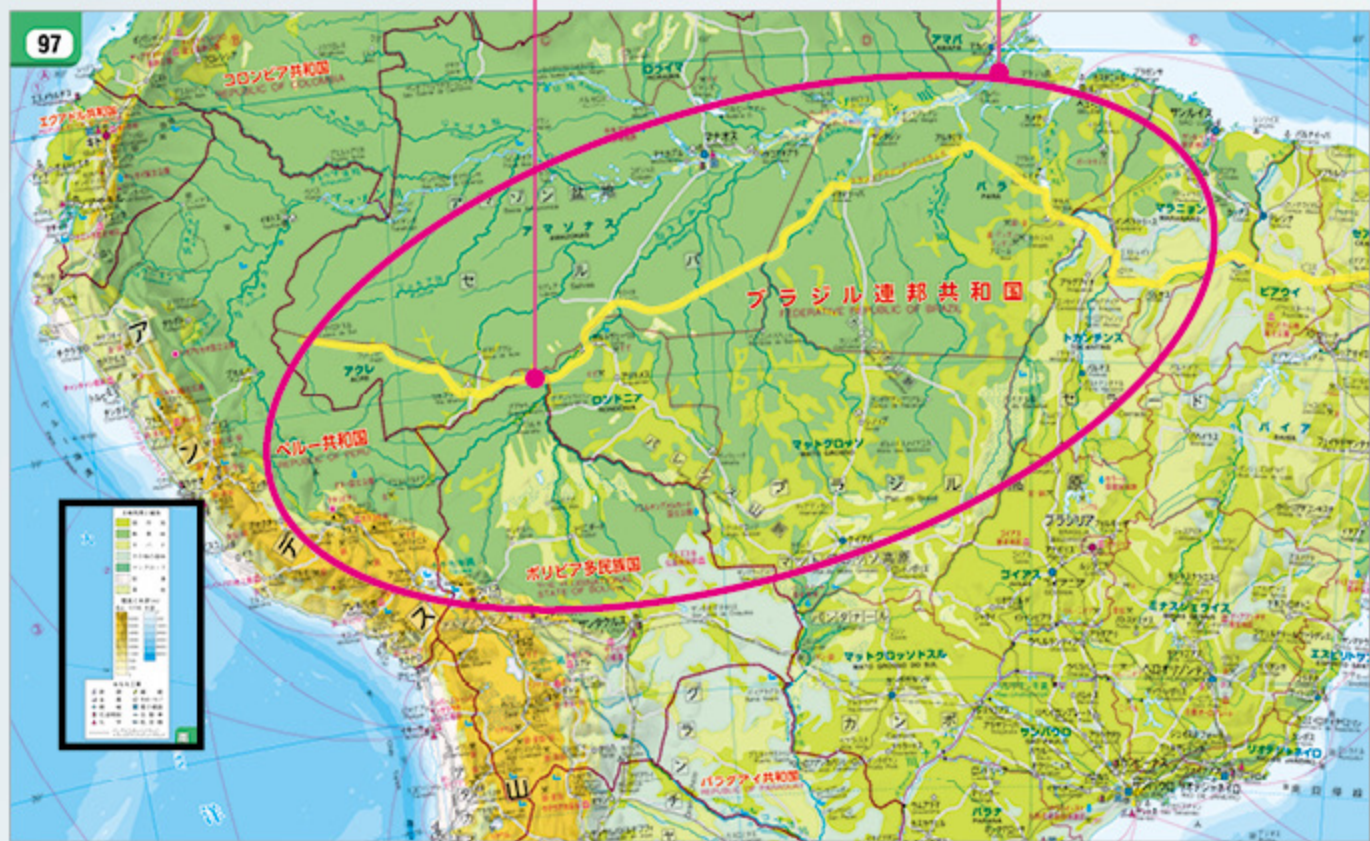
南米のアマゾン川流域では1970年ごろの横断道路の開通をきっかけにアマゾン川沿いの都市への移住が進められた。木材の切り出しを目的とした熱帯林の破壊が急速に進み、その跡地で農牧地の開墾のためのさらなる森林伐採が進められている。

POINT 1

トランスアマゾンハイウェイの経路をたどることで、横断道路がアマゾン川の支流沿いの都市を結びつけ、アマゾンの奥地から物資を輸送できるようになったことが読み取れます。

POINT 2

ブラジル高原や、トランスアマゾンハイウェイの周辺の土地利用を見ることで、熱帯林の中の随所に畑作地が見られ、熱帯林が開発されていることが確認できます。



▲p.97-98

を事例に

地理総合

地球の課題と国際理解

都市・居住問題

●教科書本文の例 発展途上国の都市・居住問題

発展途上国では、20世紀後半以降、工業化が進んで経済活動が活発になった都市には、農村から職を求める人々が大量に流入している。大都市に移動した人々は、空き地や鉄道・幹線道路沿いなどに住み着き、スラムを形成している。

POINT 3

都市郊外の傾斜地にスラムが立地するメキシコシティや、山腹や川沿いにファベラ(スラム)が立地するリオデジャネイロなど、都市図から都市の構造が理解できます。



▲p.93



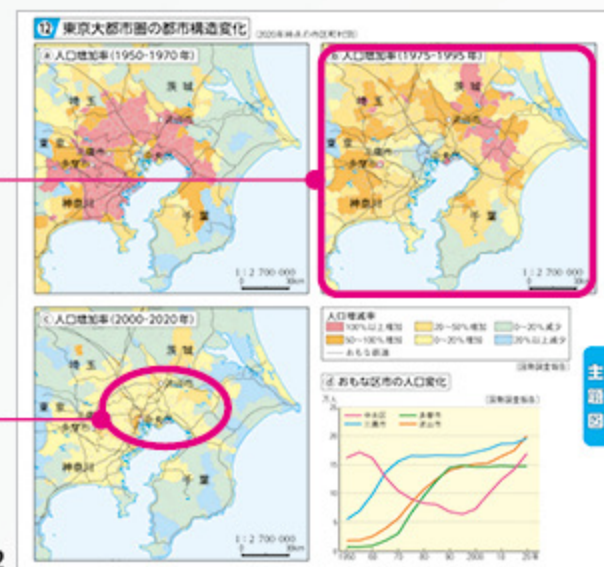
▶p.98

先進国の都市・居住問題

東京や大阪などの日本の大都市圏では、都心からの人口流出や工場の移転が進むドーナツ化現象が見られたが、近年では利便性の高い鉄道沿線や臨海部に高層住宅が建設されるなど、人口の都心回帰が進んでいる。

POINT 4

日本では高度経済成長期の後、1990年代にかけて都市の郊外化と都心部でのドーナツ化現象が起きたこと、その後都心回帰が進んだことを地図で確認でき、人口動態と都市構造の変化を考察できます。



▶p.172

▶ 〈地理総合〉自然災害と防災を事例に

地理総合

持続可能な地域づくりと私たち

自然災害と防災

●教科書本文の例

地震・津波による災害

変動帯に位置する日本は、世界的に見ても特に地震の多い地域である。日本列島の太平洋沖に分布する日本海溝・南海トラフなどに沿う場所では、プレート境界にひずみがたまりやすく、解放されると非常に規模の大きな海溝型地震が発生する。一方、内陸部の活断層がずれ動いて発生する地震は、人の住む土地の直下で発生することから直下型地震とよばれる。

火山の恵みと災害

日本は111の活火山を有する世界有数の火山国である。日本の活火山は海溝と並行して列状に分布し、その海溝側の境界は火山前線(火山フロント)とよばれる。

POINT 1
日本周辺の震央の分布を見ると、東北地方太平洋沖地震をはじめ、プレートが沈み込む境界部を震源とする海溝型の大地震が過去にも数多く発生していることが読み取れます。

POINT 2
おもな活断層の位置を確認することで、兵庫県南部地震など、内陸部を震源とする地震も発生していることが読み取れます。

POINT 3
列状に分布する火山前線の様子を、地図からたどることができます。



▲p.165-166 ➔ 本資料p.34-35

●教科書本文の例

地域で異なる気象災害

日本は梅雨前線がもたらす豪雨や台風に伴う暴風雨などによる風水害、冬の発達した低気圧がもたらす大雪による雪害に見舞われることが多く、世界的に見ても気象災害が多い国である。

山間部では急な斜面に大量の降水がもたらされることによって地盤が緩み、崖崩れや地滑り、土石流が発生する。平野部では川の水が堤防を越えたり、堤防が決壊したりすると、洪水(外水氾濫)が発生する。沿岸部では、台風が接近した際に高潮の被害を受けやすい。また、北海道や本州の日本海側など、雪が大量に降り積もる地域は豪雪地帯とよばれる。

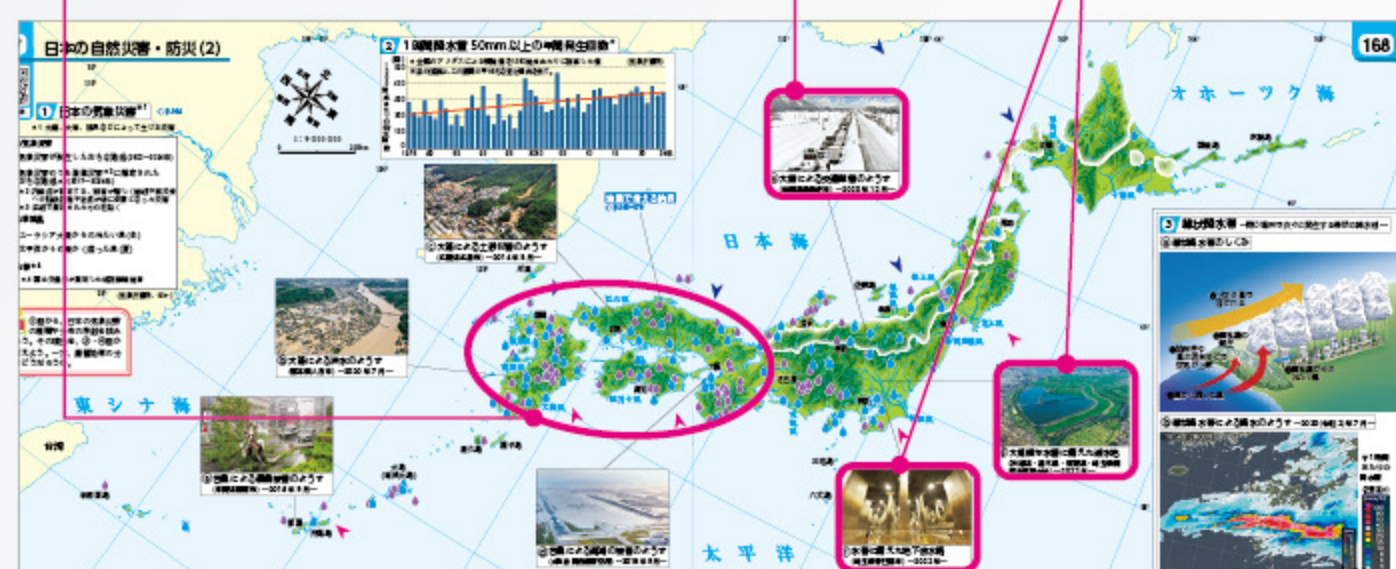
気象災害への各地の取り組み

水害の多い日本では、水害や土砂災害への対策(治水)が伝統的に取り組まれてきた。従来からの河川改修や堤防の建設に加え、地下調節地や遊水地などの整備やハザードマップを利用した避難計画の作成など、河川の流域全体での対策を講じる流域治水が進められている。

POINT 4
日本で過去に発生した気象災害や特に被害が大きかった激甚災害の場所を確認できます。全国的な分布が見られるほか、特に台風や梅雨前線の影響を受けやすい西日本で気象災害が多い傾向が読み取れます。

POINT 5
実際の事例写真と地図を合わせて見ることで、地形と気象災害の関係を確認できます。ここでは、北日本の日本海側に豪雪地帯が分布していることが読み取れます。

POINT 6
都市部での水害を防ぐための地下放水路や遊水地の事例を地図上に掲載した写真で確認できます。



▲p.167-168 ➔ 本資料p.34-35

特色①

特色②

特色③

地図帳活用例

QRコンテンツ

関連教材

全体構成

▶ 〈地理探究〉ヨーロッパ地誌を事例に

地理探究

現代世界の地誌的考察

EU諸国

EUの工業

教科書本文の例

ヨーロッパの自然環境

アルプス山脈からはライン川やドナウ川などの国際河川が流れ、流域には運河も多いため、水上交通が発達している。

ヨーロッパの工業

第二次世界大戦後に西ヨーロッパの高度経済成長を支えたのは、かつて重工業三角地帯とよばれた、北フランスとドイツのルール炭田、フランスのロレーヌ鉄山を結ぶ地域であった。

現在は、ミュンヘンやパリの近郊など、大消費地の近くに工業生産の拠点が移り、EU域内の輸送に便利なオランダのロッテルダム(ユーロポート)やフランスのマルセイユなどの臨海部に石油化学工業が立地するようになった。

イギリス南部からロッテルダムを経て、ドイツのルール地方、フランクフルト、シュツットガルト、そしてイタリア北部に至る地帯は、現在ヨーロッパで最も産業が発達しており、青いバナナ(ブルーバナナ)とよばれている。

また、第3のイタリアとよばれるヴェネツィアやフィレンツェなどでは、皮革や繊維、宝飾品などのデザイン性を追求した高級品が生み出されている。

POINT 2

重工業三角地帯を結び、その範囲内を見ると、現在は、炭田や鉱山の記号はほとんど見られず閉山したことがうかがえます。一方、この地域では現在でも鉄鋼の生産がさかんであることも読み取れます。

POINT 3

交通や工業の絵記号から、大河川の河口部に水運を活用した貿易港が置かれ、石油化学工業が発達していることが読み取れます。

POINT 4

青いバナナの地域を地図上に書き込み、その範囲内を見ると、域内に工業絵記号が掲載された都市が集積していることが読み取れます。

POINT 5

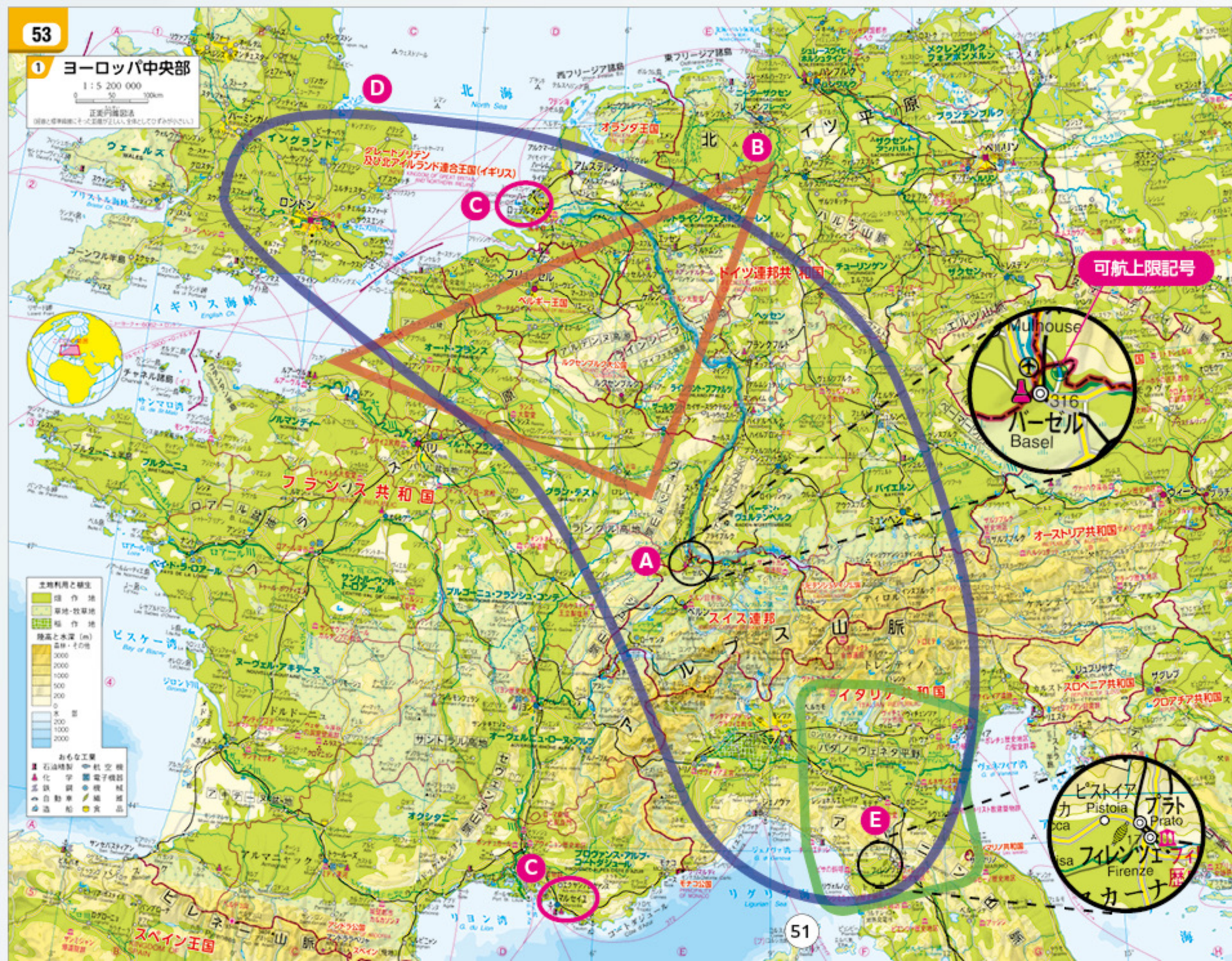
ヴェネツィアやフィレンツェ周辺に繊維の工業絵記号があることが確認できます。

POINT 1

地図上でライン川の流路をたどることで、多くの国を流れる国際河川であることや、複数の運河と接続されていることが読み取れます。さらに、可航上限の記号からスイスのバーゼル付近まで船の航行が可能であることが確認できます。

また、地図上の工業絵記号から、河川周辺には工業地が集積しており、水運と工業の発達が関連していることが読み取れます。

▼p.53-54



特色①

特色②

特色③

地図帳活用例

QRコンテンツ

関連教材

全体構成

地図帳の内容理解を助ける 充実のQRコンテンツ

地図帳のp.5や各所に配置しているQRコードを読み取ることで、学習内容の理解を深めるさまざまなコンテンツをご利用いただけます。

※QRコードを読み取り、表示されたウェブサイトへアクセスした際には、通信料がかかる場合があります



<https://tks46.jp/08hs/map>

※QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です

▼ QRコンテンツ トップページ

新詳高等地図

スマートフォンからも閲覧可能

日本地図・衛星画像

全9点

日本列島の基本図をひと続きにつなげたものを収録しているほか、日本とそのまわりの衛星画像を収録しています。

統計資料

全161点

世界74項目、日本87項目の最新の統計情報を収録しています。並び替えや、円グラフ・地図表示も可能です。

日本の資料

全9点

日本の自然、人口、産業などに関連した9つの主題図を日本列島ひと続きで確認できます。



地図投影法

全14点

投影法ごとに、地図表現の違いを確認でき、比較することもできます。



地図の読み取り方

全8点

地図の種類についてのアニメーション解説や読図の練習問題を用意しています。

世界の鳥瞰図・世界の衛星画像

全12点

世界の州ごとに鳥瞰図・衛星画像を収録し、地域の地勢を大観できます。鳥瞰図はイラストや文字要素のある/なしを切り替えられます。

世界の資料・SDGs

全16点

SDGsに関連した同縮尺・同図法の主題図を収録しています。タブの切り替えて簡単に比較できます。



地域分析Web

全85テーマ

日本のさまざまな統計を3次元グラフで可視化できるWebGISを収録しています。



「読図」の解答

地図帳の各ページにある「読図」「SDGs」「探究」などの問いに対する解答を確認できます。

問題番号	問題	解答
1	地形図の読み取り方	地形図の読み取り方に関する解説と練習問題の解答。
2	世界の鳥瞰図・衛星画像	世界の鳥瞰図・衛星画像に関する解説と練習問題の解答。
3	世界の資料・SDGs	世界の資料・SDGsに関する解説と練習問題の解答。
4	日本地図・衛星画像	日本地図・衛星画像に関する解説と練習問題の解答。
5	日本の資料	日本の資料に関する解説と練習問題の解答。
6	統計資料	統計資料に関する解説と練習問題の解答。
7	地図投影法	地図投影法に関する解説と練習問題の解答。
8	地域分析Web	地域分析Webに関する解説と練習問題の解答。
9	WebGISリンク集	WebGISリンク集に関する解説と練習問題の解答。
10	防災	防災に関する解説と練習問題の解答。

WebGISリンク集

全16点

ウェブ上で使えるさまざまなGISサービスのリンクや、WebGISを用いた読図問題「アクセスWebGIS」に取り組みます。

防災

全10点

防災に関するさまざまな外部サイトへのリンクを収録しています。

指導資料やデジタル教材も完備

※内容は一部変更になる可能性があります

指導資料 Webサポートコンテンツ付

①指導と研究

・地図帳各見開きの縮刷版を掲載し、その周りに学習活動例を示しているほか、地名の解説や「読図」の解説などを配置し、1冊で地図帳を活用した学習の要点が押さえられます。

②付録 白地図ワーク

・地図帳に連動した基礎的な白地図作業のワークシート集です。WebサポートにはPDFファイルも収録しています。

③指導書Webサポート

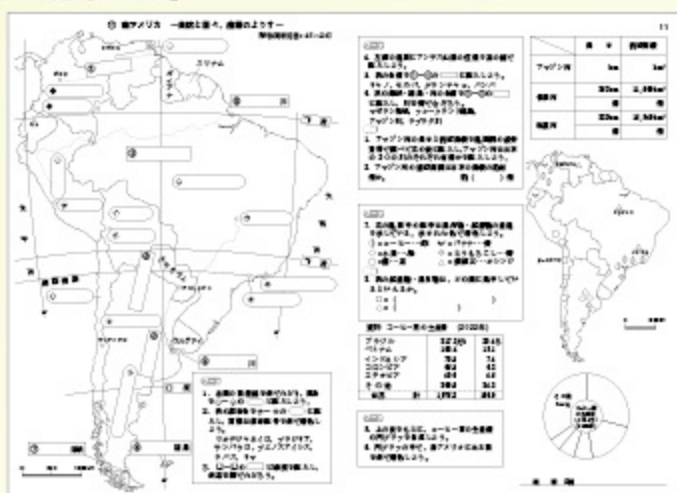
帝国書院のウェブ会員ページよりお使いいただけます。

- ・地図帳紙面ビューア
- ・一般図・主題図カラー画像集 (.jpg)
- ・白地図ワーク (問題・解答) (.pdf)
- ・地図帳QRコンテンツへのリンク
- ・アクセスWebGISへのリンク
- ・アクセスWebGISワークシート (.pdf)
- ・GIS主題図クリエイター (体験版) へのリンク (クーポンを登録してから半年間利用可能)
- ・地球儀でみる主題図へのリンク

定価：22,000円 (本体20,000円+税)



▲「指導と研究」



▲「白地図ワーク」

学習者用デジタル教科書

- ・端末上で紙の地図帳と同じ内容を確認できます。
- ・ビューア上で、拡大・縮小、書き消しができます。
- ・授業でも自宅学習でも、端末があれば豊富な資料にすぐにアクセスできます。



▼『新詳高等地図』の全体構成

※ New 今回の改訂で新規に作成または大改訂を行ったページ

項目	ページ	おもな内容	
南アメリカ	p.1-2	世界の国々、おもな国の国旗	
	p.3	もくじ、地図帳の凡例	
	p.4-5	地図帳の使い方、QRコンテンツ New	
	p.6	地図の発展とGISの活用 New	
	p.7-8	アジア・ヨーロッパ・北アメリカ	
	p.9-10	ユーラシア	
アジア	p.11-12	東アジア	
	p.13-14	中国の鳥瞰図	
	p.15-16	中国要部	
	p.17-18	ペキン、シャンハイ	
	p.19-20	中国主題図	
	p.21	チュウ川デルタ、台湾	
	p.22	【Global Eye】中国 New	
	p.23-24	朝鮮半島	
	p.25-26	東南アジア	
	p.27-28	東南アジア要部	
オセアニア	p.29-30	東南アジア主題図	
	p.31	【Global Eye】ASEAN New	
	p.32	【Global Eye】インド New	
	p.33-34	南アジア	
	p.35-36	インド要部、南部・スリランカ	
	p.37-38	西アジア New	
	p.39-40	中東要部	
	p.41-42	トルコ・カフカス地方、イスラエル・パレスチナ New	
	アフリカ	p.43-44	アフリカ
		p.45-46	アフリカ北部
p.47		アフリカ南部、アフリカ主題図	
p.48		【Global Eye】アフリカ New	
p.49-50		ヨーロッパ	
p.51-52		ヨーロッパの鳥瞰図	
p.53-54		ヨーロッパ中央部	
p.55-56		EU要部	
ヨーロッパ	p.57-58	地中海地方	
	p.59-60	イベリア半島、スイス	
	p.61-62	イタリア半島・バルカン半島	
	p.63-64	イギリス・アイルランド	
	p.64	スカンディナヴィア半島	
	p.65	ロンドン、パリ、ベルリン	
	p.66-68	ヨーロッパ主題図	
	p.69-70	【Global Eye】ヨーロッパ New	
	p.71-72	ヨーロッパ東部 New	
	p.73-74	ユーラシア北部	
北アメリカ	p.75	ロシア・ロシア周辺主題図	
	p.76	【Global Eye】ロシア New	
	p.77-78	北アメリカ	
	p.79-80	アメリカ合衆国	
	p.81-82	北アメリカの鳥瞰図	
	p.83-84	アメリカ合衆国中央部・東部	
	p.85-86	アメリカ合衆国北東部	
	p.87	アメリカ合衆国西部	
	p.88-91	北アメリカ主題図	
	p.92	【Global Eye】アメリカ合衆国 New	
p.93-94	中央アメリカ		

項目	ページ	おもな内容
南アメリカ	p.95-96	南アメリカ
	p.97-98	南アメリカ要部
	p.99	【Global Eye】南アメリカ New
オセアニア	p.100	南北アメリカ・大西洋
	p.101-102	オーストラリア・ニュージーランド
	p.103	オーストラリア要部
北極・南極	p.104	オセアニア主題図
	p.105-106	太平洋
	p.107	太平洋の島々、 【Global Eye】オセアニア New
日本	p.108	北極、南極
	p.109-110	日本の位置とまわりの国々
	p.111-112	日本列島 (1)、沖縄島
	p.113-114	日本列島 (2)、伊豆・小笠原諸島
	p.115-116	九州地方
	p.117-118	中国地方
	p.119-120	四国地方
	p.121-122	近畿地方
	p.123-124	京阪神、大阪市、名古屋市
	p.125-126	大阪湾周辺の地形
主題図	p.127-128	中部地方
	p.129-130	関東地方
	p.131-132	東京周辺、東京
	p.133-134	東京都周辺の地形
	p.135-136	東北地方
	p.137-138	北海道地方
	p.139-140	北海道地方要部
	p.141-144	さまざまな地形 (1)、(2)・集落
	p.145-148	世界の気候 (1)、(2)
	p.149-150	世界の環境問題
統計	p.151-152	世界の農業・林業・水産業
	p.153-154	世界の食料問題、健康、教育 New
	p.155-156	世界の資源・エネルギー New
	p.157-158	世界の工業・貿易・地域機構 New
	p.159-160	世界の人口・都市・居住 New
	p.161-162	世界の言語・宗教、紛争、生活文化 New
	p.163-164	日本の地形・気候
	p.165-168	日本の自然災害・防災 (1)、(2) New
	p.169-170	地図で考える防災 New
	p.171-172	日本の人口・都市・居住 New
さくいん	p.173-174	日本の産業・エネルギー・交通 New
	p.175-176	図法、地図・地球の歴史
主題図	p.177-188	統計資料
	p.189-202	さくいん
主題図	p.203-204	世界の観光・通信、交通 New
	p.205-206	世界の地形



特色一覧

項目	特色
総合的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・多面的・多角的な視点で把握できる、さまざまな一般図（基本図・拡大図）や主題図を設け、世界の地域的特色や時代の様相をとらえたり、日本の国土のあり方を探究したりできる構成になっている。 ・地球的課題や地域の生活文化、日本の国土像など高校地理学習でより使いやすい資料を豊富に掲載し、地図の読み解きを促す「読図」と合わせて、地理的事象を主体的に考えられる構成になっている。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な地図・資料に加え、現代社会の現状を理解するのに必要な拡大図が豊富に掲載されているため、世界・日本の諸地域に関する幅広い知識と教養が身につく。 ・AB判のワイドな紙面を生かし、地域間の結びつきが読み取りやすい図取りの一般図が多数掲載されている。 ・資料性の高い主題図が多数掲載されており、歴史や民族、農業や工業などの産業、人々の暮らしの様子が理解できる。また、同縮尺の主題図が多数配置され、地理的な見方・考え方を働かせながら新旧の変化や因果関係の考察ができ資料読解力が高められる。 ・日本の領土とその広がり正しく学べる地図・資料が掲載されている。
構成・分量	<ul style="list-style-type: none"> ・地理歴史科・公民科の学習に必要な一般図（基本図・拡大図）・主題図・統計資料がバランスよく掲載されている。 ・基本図・主題図を中心に、時代の変化に合わせてさまざまな表現の地図が掲載され、世界・日本各地の地理的な諸事象を多面的・多角的にとらえられるようになっている。 ・環境問題や資源・エネルギー問題などの地球的課題を考えるページや、自然災害・防災を考える特集ページを設け、これからの時代を切り拓く資質を養えるようになっている。 ・特集ページ「Global Eye」を設け、複数の地図や資料の読み取りから世界各地の地域の特徴や課題を把握し、その上で、他地域との結びつきや影響、その背景などを考察していく思考力を育めるようになっている。 ・基本的な地図の種類や地図の見方を示し、地図帳をより活用できるように、「地図帳の使い方」ページが設けられている。 ・世界史や日本史の授業で扱われる「史跡・歴史的に重要な地名」や「古戦場跡」が一般図に掲載されたり、公共などの公民科でも扱われるSDGsに関する資料も掲載されたりするなど、地理科目以外の活用にも配慮されている。
表記・表現 および 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな図法や地図表現が効果的に用いられている。基本図は、標高で配色する等高線表現で統一されている。拡大図は、土地利用や植生がわかる地図表現が導入されたり、都市別の工業の様子がわかる工業記号が掲載されたりするなど、人々の生活や産業の様子が読み取れるようになっている。 ・中国・ヨーロッパ・北アメリカの3地域には鳥瞰図が掲載され、地域の姿をより具体的に・視覚的にとらえられるようになっている。 ・地図の読み解きを促す「読図」コーナーが各所に設けられており、地理的な見方・考え方を働かせながら地図を読み取る力を身につけられるようになっている。また、資料から持続可能な開発目標について考えられるよう、主題図ページには「SDGs」に関する問いが設けられている。 ・基本図や拡大図によって掲載情報に軽量が付けられ、重要な地名が読み取りやすいように工夫されている。また、世界地図ページでは位置図が設けられ、地球上における当該地図の位置が確認しやすくなっている。 ・世界の地図には、国名や都市名、自然地域名称に欧文が併記されている。
ユニバーサル デザインへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ・タイトルやインデックス、世界の国名や日本の都道府県名は、白色で線取りをしたり、ユニバーサルデザインフォント（UDフォント）を使用したりするなど、判読しやすいように工夫されている。 ・色覚に特性をもつ生徒でも色を判別して地図が読めるように色彩表現が工夫されている。判別しにくい色彩が隣り合う場合には、凡例に模様（地紋）が入れられるなど、カラーユニバーサルデザインに配慮されている。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・地図帳全体を通して、QRコンテンツを充実させ、個別最適な学びに対応できるようになっている。 ・読み取りやすい地図にするため、緑の発色がよいフサ色の特殊インキを加えた5色で印刷されている。 ・紙は反射を抑えつつ鮮明に発色し、裏写りしない軽量のものが使用されているため、地図が美しく鮮明に表現されている。 ・長期の使用に耐えうるよう、糸かがりしたうえで糊付けされた堅牢な製本になっている。 ・環境に配慮された用紙と植物油インキが使用されている。

著作関係者

※所属・肩書は令和8(2026)年3月時点のもの

著作者

荒井 良雄 (東京大学名誉教授)
 梶田 真 (東京大学教授)
 茅根 創 (東京大学特任研究員)
 日下 博幸 (筑波大学教授)
 鈴木 厚志 (立正大学教授)
 濱野 清 (兵庫教育大学教授)

藤井 正 (鳥取大学名誉教授)

水野 真彦 (大阪公立大学教授)

株式会社帝国書院

編集協力者

岩見 和行 (神奈川県立湘南高等学校教諭)
 上野 貴子 (東京英和女学院中学部・高等部教諭)
 柴田 耕 (大阪府立北摂つばさ高等学校教諭)

多久島 亮 (関西大学中等部・高等部教諭)

西尾 和彦 (日本大学豊山高等学校・中学校教諭)

根元 一幸 (神奈川大学特任准教授)

日置 一哉 (大阪府立高津高等学校教諭)

待鳥 良治 (あべの翔学高等学校教諭)

山本 葉月 (東京都立翔陽高等学校主任教諭)

山本 大 (神奈川県立神奈川総合高等学校教諭)